

## 書評を読んで、面白い本を見つけよう

書評は、新聞、書評紙の他、様々な雑誌やWebサイトに掲載されています。書評委員や評者は、大学教員、作家、評論家など、熟達した読み手が担当しており、本選びの参考として役に立ちます。図書館では、四大新聞（朝日、毎日、読売、日経）に書評が掲載された図書は、原則として購入しています。書評を読んで、面白い本を見つけてみませんか。

	書名 / 著者 (上段)	内容紹介 (下段)	請求番号
図書館 読書 著作 ジャーナリズム	Factfulness : 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣 / ハンス・ロスリング, オーラ・ロスリング, アンナ・ロスリング・ロンランド著 ; 上杉周作, 関美和訳 日経BP社, 日経BPマーケティンク (発売), 2019.1	朝日19.1.12毎日2.10 ファクトフルネスとは——データや事実にもとづき、世界を読み解く習慣。賢い人ほどとられる10の思い込みから解放されれば、癒され、世界を正しく見るスキルが身につく。	002-R72f
	プリズン・ブック・クラブ : コリンズ・ベイ刑務所読書会の一年 / アン・ウォームズリー著 ; 向井和美 訳 紀伊国屋書店, 2016.9	日経16.10.23東京17.1.8 刑務所内の読書会で、囚人たちは喪失感や怒り、孤独、贖罪を吐露し、読書の楽しみを知る…。	015.6-W36p
	絶望読書 / 頭木弘樹著 河出書房新社, 2018.11 【河出文庫】	産経16.5.25朝日18.11.10 いま悲しみの最中にいる人に、いつかの非常時へ備える人に、知っていてほしい絶望に寄り添う物語の効用と、命綱としての読書案内。	019-Ka761z
	読書礼讃 / アルベルト・マンゲル著 ; 野中邦子訳 白水社, 2014.6	毎日14.7.20 稀代の読書家が、ボルヘス、ルイス・キャロル、セルバンテス、ダンテら先人を偲びつつ、自身の半生と書物との深い結びつきを語る。読書への変わらぬ愛と信頼に満ちた、珠玉のエッセイ集。「読むこと」「読者であること」とは何かを考える。	019-Ma43db
	戦地の図書館 : 海を越えた一億四千万冊 / モリー・グプティル・マニング著 ; 松尾恭子訳 東京創元社, 2016.5	日経16.7.3読売7.10 第二次世界大戦中、米国の図書館員たちは全国から寄付された書籍を兵士に送る図書館運動を展開した。	019-Ma45s
	優雅な読書が最高の復讐である : 山崎まどか書評エッセイ集 / 山崎まどか著 DU BOOKS, デイスクユニオン (発売), 2018.6	毎日18.7.15 贅沢な時間を過ごすための150冊+α。海外文学における少女探偵、新乙女クラシック、昭和のロマンティックコメディの再発見、ミランダ・ジュライと比肩する本谷有希子の女たちの「リアル」…など。著者14年ぶりの、愛おしい本にまつわるエッセイ・ブックガイド。	019-Y43y
	書物の破壊の世界史 : シュメールの粘土板からデジタル時代まで / フェルナンド・バエス著 ; 八重樫克, 八重樫由貴子訳 紀伊国屋書店, 2019.3	朝日19.4.20 「50世紀以上も前から書物は破壊され続けているが、その原因のほとんどは知られていない。本や図書館に関する専門書は数あれど、それらの破壊の歴史を綴った書物は存在しない。何とも不可解な欠如ではないか?」—ことは戦争や迫害、検閲だけでなく、数多の天災・人災、書写材の劣化、害虫による被害、人間の無関心さに及ぶ。	020.2-B14s
	パクリ経済 : コピーはイノベーションを刺激する / K・ラウスティアラ, C・スプリグマン [著] ; 山形浩生, 森本正史訳 みすず書房, 2015.11	朝日16.1.17日経2.14 郊外のショッピングモールから街のビストロまで、パクリはあらゆる場所にあふれている。「コピーは創造性を殺す」—通常はこう考えられている。しかし、コピーは絶対に悪なのだろうか?	021.2-R18p
	世界のしおり・ブックマーク意外史 / 猪又義孝著 デコ, 2017.10	毎日18.1.7 日本で初めての「しおり・ブックマーク」の通史。しおり・ブックマークのコレクターが2000年におよぶ歴史を、意外なエピソードとともに紹介する。「しおりギャラリー」のコーナーでは古今東西のしおり・ブックマークを330点掲載。	024-I56s
	新聞記者 / 望月衣塑子 [著] KADOKAWA, 2017.10 (角川新書)	週刊朝日17.11.17 官房長官会見で、次々と質問を繰り出す著者。脚光を浴び、声援を受ける一方で、バッシングや脅迫、圧力を受けてきた。演劇に夢中だった幼少期、矜持ある先輩記者の教え、スクープの連発、そして母との突然の別れ…。記者としての思いを明かす。	070.16-Mo12s
ちくま新書	カール・マルクス : 「資本主義」と闘った社会思想家 / 佐々木隆治著 筑摩書房, 2016.4 【ちくま新書1182】	朝日16.5.15日経6.26 マルクスの実像に迫り、社会変革の最強の武器であり続ける、その思想の核心を明らかにする。	081-C44-1182
	死刑 : その哲学的考察 / 萱野稔人著 筑摩書房, 2017.10 【ちくま新書1281】	出版ニュース17年12月中旬号 死刑の存否をめぐり、鋭く意見が対立している。「結論ありき」でなく、死刑それ自体を深く考察することで、これまでの論争を根底から刷新する、究極の死刑論。	081-C44-1281
	平成デモクラシー史 / 清水真人著 筑摩書房, 2018.1 【ちくま新書1299】	毎日18.2.25 安倍一強を生みだした平成の「政治改革」の本質とは何か。90年代の統治改革が政治の風景をがらりと変えた。「小泉劇場」から民主党政権を経て「安倍一強」へ。激動の30年を俯瞰し、「平成デモクラシー」の航跡を描く。	081-C44-1299
	欧州ポピュリズム : EU分断は避けられるか / 庄司克宏著 筑摩書房, 2018.5 【ちくま新書1327】	日経18.6.16 反移民、反グローバル化、反リベラルが席卷。ポピュリズム危機に揺れるEUの現実を、その法制度と機構から分析。	081-C44-1327

薬物依存症 / 松本俊彦著 筑摩書房, 2018.9 【ちくま新書1333-4】	081-C44-1333(4)
毎日18.11.18 「意志が弱い」「怖い」「快樂主義者」「反社会的組織の人」…薬物依存症は、そういったステレオタイプな先入観とともに報道され、語られてきた。しかし、そのイメージは事実なのだろうか?痛みを抱え孤立した「人」に向き合い、つながる機会を提供する治療・支援こそが必要なのだ。本書は、薬物依存症にまつわる様々な誤解をとき、その真実に迫る。	
太平洋戦争日本語諜報戦：言語官の活躍と試練 / 武田珂代子著 筑摩書房, 2018.8 【ちくま新書	081-C44-1347
1347】 東京18.10.7 太平洋戦争の対日諜報戦で、捕獲した日本軍文書の翻訳、暗号解読、捕虜の尋問、プロパガンダ活動等に携わった言語官たち。終戦後は連合軍の一員として戦犯裁判や、GHQの占領政策実施で不可欠な役割を果たした。米国、英国、オーストラリア、カナダは、語学兵をどのように動員したか。	
国語教育の危機：大学入学共通テストと新学習指導要領 / 紅野謙介著 筑摩書房, 2018.9 【ちく	081-C44-1354
ま新書1354】 東京18.11.4 「大学入学共通テスト」と「新学習指導要領」をつぶさに分析し、そこからかいま見える国語教育が抱える問題点を指摘し、警鐘を鳴らす。	
帝国化する日本：明治の教育スキャンダル / 長山靖生著 筑摩書房, 2018.9 (ちくま新書1357)	081-C44-1357
東京18.11.25 日清・日露戦争に勝利した日本は帝国化に向かうべく、愛国教育を推進した。明治初頭の実学優先・合理主義の教育が教養・精神主義に転換し、国家と天皇の神聖化、帝国神話強化に向かうメカニズムを解説する。	
「身体(からだ)を売る彼女たち」の事情：自立と依存の性風俗 / 坂爪真吾著 筑摩書房, 2018.10	081-C44-1360
【ちくま新書1360】 東京18.11.11 なぜ彼女たちは、JKフレやデリヘルで働くのだろうか?風俗で働く女性のための生活・法律相談窓口「風テラス」に寄せられる彼女たちの悩みは背景には、若者の貧困、DVや虐待などの家庭問題、ワーキングプア、見えづらい障害や病気など、複雑な社会課題が絡み合っている。	
アンダークラス：新たな下層階級の出現 / 橋本健二著 筑摩書房, 2018.12 (ちくま新書1371)	081-C44-1371
毎日19.3.10 就業人口の15%が平均年収186万円。この階級の人々はどのように生きているのか?調査データを基に実態を明らかにする。	
国際法 / 大沼保昭著 筑摩書房, 2018.12 (ちくま新書1372)	081-C44-1372
読売19.1.6東京1.27 憲法や安全保障のような大問題だけでなく、コンビニでパンを買うといった私的な問題にまで国際法は関わっている。国際法がわからなければ、現代史も理解できない。弱肉強食の「国際社会」という世界で、法はどう働くのか。	
都市空間の明治維新：江戸から東京への大転換 / 松山恵著 筑摩書房, 2019.1 (ちくま新書1379)	081-C44-1379
朝日19.3.2 江戸が東京になったとき、どのような変化が起こったのか? 皇居改造、煉瓦街計画、武家地の転用など空間の変容を考察する。	
思いつきで世界は進む：「遠い地平、低い視点」で考えた50のこと / 橋本治著 筑摩書房, 2019.2	081-C44-1384
【ちくま新書1384】 週刊読書人19.3.1 今年一月二九日に急逝した作家橋本治さんの遺著。遠い地平を俯瞰的に眺めて、想像力だけを地に下して現実を低く見るといふ姿勢で書かれた時評集。	
京都思想逍遥 / 小倉紀蔵著 筑摩書房, 2019.2 【ちくま新書1388】	081-C44-1388
朝日19.4.20 源氏物語に始まり、道元、世阿弥、頼山陽、鈴木大拙、三島由紀夫に至る様々な言葉と交錯し、その魂と交響する。古都をめぐる古今の思考の足跡を辿る京都思想案内。	
ハンナ・アーレント：屹立する思考の全貌 / 森分大輔著 筑摩書房, 2019.6 【ちくま新書1416】	081-C44-1416
東京19.7.21 何ものにも依らないユニークな「手摺なき思考」が注目されたアーレント。本書は、全体主義が勃興して消えて行った激動の現代史を考察し続けた彼女の思索の最深部に迫る一書である。哲学、政治、思想という三つの補助線を駆使しながら主要な各作品を詳細に読みとき、時代を超えて屹立する思考の全貌を把握する。	
マルクス・ガブリエル欲望の時代を哲学する / 丸山俊一, NHK「欲望の時代の哲学」制作班著	100-Ma591m
NHK出版, 2018.12 (NHK出版新書569) 朝日19.3.16 “哲学界の新星”、マルクス・ガブリエル。2018年6月の来日時滞留記録をまとめて大反響となったNHK番組「欲望の時代の哲学」を待望の書籍化。「戦後史」から「日本」までを語りつくす。世界的ロボット工学者・石黒浩氏との対論も収録。	
活動的生 / ハンナ・アーレント[著]; 森一郎訳 みすず書房, 2015.6	114-A68k
WEBROZA15.9.17 哲学的名著『人間の条件』のドイツ語版からの新訳。ドイツ語で思考していたアーレントが英語で発表した『人間の条件』にみられた一種のわかりにくさは、著者自ら手を加えた母語の版からの翻訳によって鮮やかに生まれ変わった。アーレント思想の核心をなすこの現代の古典を、精密かつ読みやすい日本語でおくる。	
人間の条件 / ハンナ・アーレント著; 志水速雄訳 筑摩書房, 1994.10 【ちくま学芸文庫】	114-A68n
日経16.10.9 「人間の条件」の最も基本的要素となる活動力は、《労働》《仕事》《活動》の三側面から考察することができよう。	
中動態の世界：意志と責任の考古学 / 國分功一郎著 医学書院, 2017.4	130-Ko45c
日経17.4.29読売5.7朝日5.21 中動態とは何なのか。能動態と受動態の間のような印象を受けるが、その印象は正しいのか。	
エンゲルス：マルクスに将軍と呼ばれた男 / トリストラム・ハント著; 東郷えりか訳 筑摩書房,	134.645-E61Yh
2016.3 読売16.5.8毎日5.29日経6.19 マルクスと家族の生活を支えたエンゲルスとは、一体何者だったのか。思想と人間に迫る評伝。	
なぜ世界は存在しないのか / マルクス・ガブリエル著; 清水一浩訳 講談社, 2018.1	134.94-G11n
【講談社選書メチエ666】 読売18.2.25毎日4.22 ポストモダン以後、どんな哲学が求められているのか?現代世界の中で意味のある哲学とは何なのか? 「新しい実在論」が、その答えである。カンタン・メイヤーらの潮流とも連携しつつ活躍する一九八〇年生まれドイツ哲学界の新星が読者に向けて「なぜ世界は存在しないのか」という大胆な問いを投げかけ、豊富な具体例とともに解きほぐしていく。	

心理学	<b>Powers of two : 二人で一人の天才 / ジョシュア・ウルフ・シェンク著 ; 矢羽野薫訳</b> 英治出版, 2017.4 読売17.5.21日経6.17 世界で最も革新的な企業。音楽史上最高のアルバム。生命の秘密を解く発見…。各界の偉大な「二人組」の出会い、関係成熟のプロセスから明らかになる伝説の舞台裏を描く。一人では何もできないが、二人なら何でもできる。 141.5-Sh14p
	<b>自我論集 / ジークムント・フロイト著 ; 竹田青嗣編 ; 中山元訳 筑摩書房, 1996.6 【ちくま学芸文庫】</b> 145.9-F46jb 朝日18.6.9 フロイト「自我論」の思想的変遷。『欲動とその運命』『抑圧』『快感原則の彼岸』『自我とエス』など8編を、新訳で。
	<b>国体論 : 菊と星条旗 / 白井聡著 集英社, 2018.4 【集英社新書0928A】</b> 155-Sh81k 毎日18.4.15 新書大賞2019第8位 自発的な対米従属の謎を解く鍵は、国体にあった。戦前の国体＝天皇から、戦後の国体＝アメリカへを分析。「戦後の国体」とは、天皇制というピラミッドの頂点に、アメリカを鎮座させたものなのだ。なぜ、かくも奇妙な「国体」が生まれたのか。「戦後の国体」は、われわれをどこに導くのか。
	<b>女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと / 西原理恵子著 KADOKAWA, 2017.6</b> 159.6-Sa17o 朝日17.8.6 七転び八転びで仕事に全力投球。子どもを必死に育てあげたサイバラかあさんの、厳しくもハートフルな人生指南。
倫理学	<b>異端の時代 : 正統のかたちを求めて / 森本あんり著 岩波書店, 2018.8 (岩波新書1732)</b> S-161-Mo55i 読売18.9.23 新書大賞2019第9位 世界に蔓延するポピュリズム。はたしてそれは民主主義の異端なのか? 古代中世の神学史、丸山眞男らの議論を手がかりに、宗教・政治・文化に通底する「異端発生メカニズム」を解き明かし、混迷する時代の深層に迫る。
	<b>教皇フランシスコ : 南の世界から / 乗浩子著 平凡社, 2019.3 【平凡社新書907】</b> 198.22-F43Yyb 読売19.6.9 2013年、第266代ローマ教皇となったフランシスコはアルゼンチン育ち。この南半球からの最初の教皇はいま、世界の注目と敬意を集めている。なぜ、こうした教皇が生まれたのか。カトリック大陸ラテンアメリカにおける宗教の役割から、フランシスコの経歴、バチカンの状況等々、その背景をおさえ、この教皇が現在果たそうとしている課題や実績を明らかにする。
	<b>歴史は実験できるのか : 自然実験が解き明かす人類史 / ジャレド・ダイヤモンド, ジェイムズ・A・ロビンソン編著 ; 小坂恵理訳 慶應義塾大学出版会, 2018.6</b> 209-D71r 朝日18.7.28日経8.11 歴史学、考古学、経済学、経済史、地理学、政治学など幅広い専門家たちが、それぞれのテーマでの比較史、自然実験で分析した論文を集めたものである。比較も2つの対象から81の島々の対象や233の地域を対象にしたものまで、地域は太平洋の島々からアメリカ、中米、ヨーロッパ、インドまで、また時代は過去から現在まで幅広く扱っている。
宗教	<b>暴力の人類史 / スティーブン・ピンカー著 ; 幾島幸子, 塩原通緒訳 青土社, 2015.2</b> 209-P66b-1 朝日15.3.15日経4.5読売4.12 人類の歴史を通観し、神経生物学や脳科学などの知見から、暴力をめぐる人間の本性を分析。
	<b>図説アルプスの少女ハイジ : 『ハイジ』でよみとく19世紀スイス / ちばかおり, 川島隆著 河出書房新社, 2013.9</b> 209-Se22x-86 日経19.3.16 永遠の名作『アルプスの少女ハイジ』。原作を丁寧にとり、歴史的背景をよみとき、作者シュペーリの生涯も解説する永久保存版。ヨーロッパの可愛い挿絵満載。
	<b>馬・車輪・言語 : 文明はどこで誕生したのか / デヴィッド・W・アンソニー著 ; 東郷えりか訳 筑摩書房, 2018.5</b> 209.3-A49u-1 209.3-A49u-2 毎日18.6.24 今日、世界の30億人が話している言語は、印欧語族というグループにまとめられる。言語学者たちは、英語、ヒンディー語などそれぞれの言葉に分岐する前の祖先語の系譜をたどった。すると最も古い祖語の中に「馬」「車輪」「羊毛」といった単語が現れる。その言葉を話していた人びとは、そもそもどこにいたのか?なぜ今日これほどまでに拡散できたのか?
	<b>20世紀の歴史 : 両極端の時代 / エリック・ホブズボーム著 ; 大井由紀訳 筑摩書房, 2018.6-2018.7 (ちくま学芸文庫)</b> 209.7-H812n.o-1 209.7-H812n.o-2 毎日19.8.5 イギリスを代表する歴史家が、自身の生涯と重ねながら著した20世紀史の傑作。上巻には、第一次大戦による総力戦時代の幕開けと世界革命、経済恐慌、第二次世界大戦などを扱った第1部(「破滅の時代」と、東西間の冷戦と戦後の繁栄に迫った第2部(「黄金時代」)を収める。下巻には、第二次世界大戦後における社会と文化の変革、第三世界の姿を、そして、1970年代以降に生じた新たな危機と社会主義の終焉、21世紀への展望などを論じた第3部(「地滑り」)を収める。
	<b>夢遊病者たち : 第一次世界大戦はいかにして始まったか / クリストファー・クラーク著 ; 小原淳訳 みすず書房, 2017.1</b> 209.71-C76m-1,2 読売17.2.26毎日3.19朝日4.2日経4.22 史上初の総力戦、第一次世界大戦はどのように始まったのか。バルカン半島の紛争が世界大戦へと展開する過程を克明に描く。現在の紛争の火種がここにあることを示す、第一次世界大戦研究の決定版。全2巻。
	<b>第一次世界大戦史 : 諷刺画とともに見る指導者たち / 飯倉章著 中央公論新社, 2016.3</b> 【中公新書2368】 C-209.71-I27d 読売16.4.17 第一次世界大戦では、戦意高揚や敵国を揶揄するための風刺画が、各国メディアで多用された。複雑な大戦史を絵を織り交ぜながら追う。
世界史	<b>承久の乱 : 日本史のターニングポイント / 本郷和人著 文藝春秋, 2019.1 【文春新書1199】</b> 210.42-H84j 毎日19.4.21 本当の天下分け目の戦いはこの合戦だ!「東国の王」北条義時は、希代のカリスマ後鳥羽上皇になぜ勝てたのか。六百五十年続く「武士の天下」を生み出した騒乱を、鎌倉時代研究の第一人者が読み解く。
	<b>承久の乱 : 真の「武者の世」を告げる大乱 / 坂井孝一著 中央公論新社, 2018.12</b> (中公新書2517) C-210.42-Sa29j 日経19.1.26東京2.10毎日4.21 後鳥羽上皇は鎌倉幕府打倒を企て、振り返りにあったのか? 公武関係を劇的に変え、中世社会のあり方を決めた大乱を描く。
日本史	

日露近代史：戦争と平和の百年 / 麻田雅文著 講談社，2018.4 【講談社現代新書2476】 210.6-A81n 毎日18.5.20 幕末から敗戦までのロシアとの「戦争と平和」の歴史を辿る、日露関係史。先人の対露政策から学ぶこととは。
歴史と戦争 / 半藤一利著 幻冬舎，2018.3 (幻冬舎新書495) 210.6-H29r 朝日18.7.7 幕末・明治維新からの日本近代化の歩みは、戦争の歴史でもあった。日本民族は世界一優秀だという驕りのもと、無能・無責任なエリートが戦争につきすすみ、メディアは煽り、国民は熱狂した。過ちを繰り返さないために、歴史に何を学ぶべきなのか。
日本の近代とは何であったか：問題史的考察 / 三谷太一郎著 岩波書店，2017.3 【岩波新書】 S-210.6-Mi58n 朝日17.4.9毎日5.28 政党政治を生み、資本主義を構築し、植民地帝国を出現させ、天皇制を枠組みとした日本の近代とは。
近現代日本史との対話 【幕末・維新-戦前編】 【戦中・戦後-現在編】 / 成田龍一著 210.6-N52kb-1 集英社，2019.1 (集英社新書) 210.6-N52kb-2 週刊読書人19.3.8 東京4.21 人びとの動きがつくり出す一つの流れ—人間関係から社会の仕組みまで—を「システム」として捉え、変遷を軸に近現代日本の歴史を叙述する。【幕末・維新-戦前編】は、システムA1(国民国家の形成)・システムA2(帝国主義への展開)とシステムB1(戦争への動員体制)を軸に、【戦中・戦後-現在編】は1937年の日中戦争、第二次世界大戦、敗戦とその後の占領期、システムB2(高度経済成長期)・システムC1(オイルショック以後)を経て、現在に至るまでの道筋を描く。
江戸東京の明治維新 / 横山百合子著 岩波書店，2018.8 (岩波新書1734) S-210.61-Y79e 東京18.10.21 諸大名の一斉帰国で人口は一挙に半減し、百万都市は瞬く間に衰退へと向かう。江戸の秩序が解体してゆく東京で、人びとは時代の変化に食いつき、生き延びる道を求めて必死にもがきつづけた。名も残らぬ小さき人々の明治維新史。
日中戦争全史 / 笠原十九司著 高文研，2017.7 210.74-Ka71n-1, 2 毎日17.8.27 対華21カ条要求からアジア太平洋戦争敗戦までの全体像を日本・中国・欧米の資料を駆使して叙述した大作。
増補 南京事件論争史：日本人は史実をどう認識してきたか / 笠原十九司著 平凡社，2018.12 210.74-Ka71nc.a 【平凡社ライブラリー】 東京19.2.10 一九三七年一月一三日の南京事件は明々白々な史実であるにもかかわらず、日本では否定派の存在によって、不毛で熾烈な論争が繰り返されてきた。その経緯を丹念にたどることで、否定派の論拠の問題点とトリックを衝き、論争を生む日本人の歴史認識を鋭く問う。元本刊行からの一〇年分を大幅増補した決定版。
不死身の特攻兵：軍神はなぜ上官に反抗したか / 鴻上尚史著 講談社，2017.11 210.75-Ko41f 【講談社現代新書2451】 週刊朝日17.12.22東京18.2.25 太平洋戦争の末期に実施された”特別攻撃隊”。戦死を前提とする攻撃によって、若者たちが命を落としていった。だが、陸軍第一回の特攻から計9回の出撃をし、9回生還した特攻兵がいた。鴻上尚史氏が生前の佐々木氏本人へインタビュー。なぜ、軍では絶対である上官の命令に背き、命の尊厳を守りぬけたのか。
歴史修正主義とサブカルチャー 青弓社，2018.2 210.75-Ku51r 東京18.8.19 1990年代の歴史修正主義とメディアの結び付きを、アマチュアリズムと参加型文化という視点からあぶり出し、現代の右傾化に通じる保守言説の「原画」と「知の枠組み」を照らし出す社会学の成果。
日本軍兵士：アジア・太平洋戦争の現実 / 吉田裕著 中央公論新社，2017.12 【中公新書2465】 C-210.75-Y86n 朝日18.6.23 310万人に及ぶ犠牲者を出した大戦。兵士の目線から、敗色濃厚になった時期以降の戦争の実態を追う。
日本の長い戦後：敗戦の記憶・トラウマはどう語り継がれているか / 橋本明子 [著]；山岡由美訳 210.76-H383n みすず書房，2017.7 東京17.9.3 憲法改正、領土問題、歴史認識問題はなぜ、軋轢を招くのか。比較文化の視点から、日本の「敗戦の文化」を考察。
台湾人の歌舞伎町：新宿、もうひとつの戦後史 / 稲葉佳子，青池憲司著 紀伊國屋書店，2017.9 213.6-I51t 日経17.10.21 “らんぶる”も“スカラ座”も“風林会館”も台湾人がつくった…。戦後、裸一貫で放り出された台湾人は、駅前のヤミ市で財をなし、焼け野原に新たに構想された興行街・歌舞伎町を目指した。初めて明らかにされる、貴重な時代証言。
沖縄憲法なき戦後：講和条約三条と日本の安全保障 / 古関彰一，豊下楯彦 [著] みすず書房， 219.9-Ko83o 2018.2 東京18.4.29 沖縄が「基地の島」になったのは、戦後、日米両国の思惑によって「無憲法の島」に追いやられたからだとなれば、本土の視点から、沖縄の現状をどう捉えなおすべきか。憲法と外交史の専門家が、これまで検証されなかった国会議事録や行政文書、外交文書を渉猟して、「軍事植民地」が生み出された経緯と、日米両国がそれぞれ依拠してきた論理を解き明かす。
「中東」の世界史：西洋の衝撃から紛争・テロの時代まで / 白杵陽著 作品社，2018.8 226-U95c 日経18.12.1 中東戦争、パレスチナ問題、イラン革命、湾岸戦争、「9.11」、イラク戦争、「アラブの春」、シリア内戦、クルド人問題、「イスラーム国」(IS)…。 「中東」をめぐる数々の危機はなぜ起きたのか？ 「中東」を単なる一地域としてではなく、アラブ諸国やトルコ、イラン、イスラエルから、ヨーロッパやアメリカ、ソ連/ロシア、さらには日本にいたるまで、内外の様々な勢力が交錯する場として示し、200年以上にわたる激動の歴史を大胆に解説する。
9.11後の現代史 / 酒井啓子著 講談社，2018.1 【講談社現代新書2459】 228-Sa29k 東京18.3.25 「9.11」、イラク戦争、アラブの春、という中東の3つの起点から、アメリカの陰り、テロ、難民、宗教対立を読み解く。
イスラエルに関する十の神話 / イラン・パペ著；脇浜義明訳 法政大学出版局，2018.11 228.5-P22ib 朝日19.2.9 パレスチナは民なき土地ではなかったし、ユダヤ人は土地なき民ではなかった。パレスチナは植民地化されたのであって、ユダヤ人がイスラエルを回復したのではない。歴史の歪曲と情報操作によって生み出されてきたイスラエルに関する「神話」、すなわち虚偽にまみれた政治的プロパガンダの背景を読み解き、反証をあげて論駁する。イスラエル人の歴史家である著者のエッセンスを集約する入門書。

	イギリス現代史 / 長谷川貴彦著 岩波書店, 2017.9 【岩波新書1677】 S-233.07-H36i 毎日17.12.3 第二次世界大戦を起点とする福祉国家体制の形成、英国病とサッチャリズム、現在と、戦後イギリスの通史を描く。
	ナチズムに囚われた子どもたち：人種主義が踏みにじった欧州と家族 / リン・H. ニコラス著；若林 234.074-N71n-1 美佐知訳 白水社, 2018.3 234.074-N71n-2 読売18.5.27朝日6.2 ナチ支配下のヨーロッパで、ヒトラーの人種主義が子どもたちに課した過酷な処遇を、包括的に論じる。
	ヒトラーとドラッグ：第三帝国における薬物依存 / ノーマン・オーラー著；須藤正美訳 白水社, 234.074-O291h 2018.10 毎日18.10.14日経10.20 ヒトラーの主治医テオドル・モレルは、一本の注射で体調不良を解決する頼りがいのある医師だった。ヒトラーはホルモン剤、鎮痛剤、覚醒剤、そしてモレルへの依存を深め、不調のたびに投薬や注射を求めるようになった。「錠剤の形をしたナチズム」の恐るべき実態に迫る、傑作ノンフィクション。英『ガーディアン』年間最優秀図書(歴史部門)選出。
	ヒトラーの裁判官フライスラー 白水社, 2017.4 234.074-O71h 朝日17.5.21 白バラ抵抗運動やヒトラー暗殺未遂事件の被告人ほか、死刑判決を多数下した人民法廷長官の生涯と、司法界の闇を暴く戦慄の書。ナチドイツにおいて司法が独立性を奪われ政治の道具となってゆく経緯とその恐るべき帰結をつぶさに描き出す。死刑判決文・凶版多数収録。
西洋史	ゲッベルスと私：ナチ宣伝相秘書の独白 / ブルンヒルデ・ポムゼル, トーレ・D.ハンゼン著；森内 234.074-P78g 薫, 赤坂桃子訳 紀伊國屋書店, 2018.6 朝日18.8.18 ドキュメンタリー映画『ゲッベルスと私』の書籍版。「なにも知らなかった。私に罪はない」ヒトラーの右腕としてナチ体制を牽引したゲッベルスの103歳の元秘書が、69年の時をへて当時を回想する。映画では語られなかった事実も明らかに。
	情熱でたどるスペイン史 岩波書店, 2019.1 【岩波ジュニア新書890】 236-I33j 読売19.3.3 フラメンコや闘牛に表出する情熱的な国民性、異文化が融合する傑出した建築、パプリカやトマトで彩られた真っ赤な食べ物。他のヨーロッパ諸国とはピレネー山脈にさえぎられ、長い年月をイスラームとキリスト教が影響しあい、特異な文化が育まれたスペイン。衝突と融和の歴史を、情熱的な国民性からひもとく。
	フィレンツェ：比類なき文化都市の歴史 / 池上俊一著 岩波書店, 2018.5 (岩波新書1719) S-237-I33f 東京18.8.5 ローマの植民市として出発した古代、有力家門が鎬を削り都市の「自由」が高らかに掲げられた中世、そしてメディチ王朝期。いつの時代も、人々は自らの名誉にかけ、この町を崇高なまでの美の都に仕立て上げた。
	ロシア革命史入門 / 広瀬隆著 集英社インターナショナル, 集英社(発売), 2017.2 238.07-H72r 【インターナショナル新書】 日刊ゲンダイ17.3.7 第一次世界大戦を終わらせ、農民や労働者を貧困から救い、生活環境を改善する崇高な理想を掲げた国家が、奇跡的な成功を収めた後、いかに当初の精神を失い、粛清の嵐が吹き荒れる独裁体制へと変貌を遂げていったのか。
北アメリカ史	ロシア革命：破局の8か月 / 池田嘉郎著 岩波書店, 2017.1 【岩波新書1637】 S-238.07-I32r 毎日17.3.5 初の社会主義国家樹立となったロシア革命から100年。あの時潰え、民衆の間に生まれたものは何だったのか。
	風刺画とアネクドートが描いたロシア革命 / 若林悠著 現代書館, 2017.10 238.07-W17f 東京17.11.5 風刺画、コマ割りまんが102点とアネクドート(ロシアンジョーク)で、ボルシェビキの権力闘争、社会主義国家の建設、トロツキー追放からスターリン独裁まで、ロシア革命の壮大な歴史群像を笑いで織りなすルポルタージュ。
	ナチスに挑戦した少年たち / フィリップ・フーズ作；金原瑞人訳 小学館, 2018.7 238.9-H85n 東京18.8.12 第二次世界大戦、ナチス占領下のデンマークで、レジスタンス活動をした少年たち。彼らは、自分たちのグループをチャーチルクラブと呼んだ。自転車で走り回り、敵の車を破壊し、銃を盗む。これは、武器を何一つ持たない少年たちが、ヒトラー率いるナチス軍に抵抗した本当にあった話である。
	バルカン：「ヨーロッパの火薬庫」の歴史 / マーク・マゾワー著；井上廣美訳 中央公論新社, C-239-Ma99b 2017.6 【中公新書2440】 朝日17.7.23 オスマン帝国時代、住民の多くを占める正教徒たちは平和裡に暮らしていた。19世紀、帝国が衰退すると、ギリシャ、セルビア、ブルガリアなどが独立を果たす。だが新興国家に待ち受けていたのは、欧州列強の思惑と民族対立だった。
	新書アフリカ史 / 宮本正興, 松田素二編 講談社, 2018.11 (講談社現代新書2503) 240-Sh69.a2 読売19.3.24 変化の激しいアフリカ現代史を新たに書き加え、従来の記述も新しい知見や主張に基づいて内容を大幅に見直した改訂新版。
	ファンタジランド：狂気と幻想のアメリカ500年史 / カート・アンダーセン著；山田美明, 山田文訳 253-A46f-1 東洋経済新報社, 2019.1 253-A46f-2 週刊東洋経済19.4.13 アメリカとは何か？なぜトランプ政権を生み出したのか？新世界を信じた夢想家たちとその末裔が創り上げた、狂信者の国家の物語。ニューイングランド幻想、ジェファソン：独立宣言、西部開拓：フロンティア精神、フォード：大量生産モデル、ディズニー：夢の王国建設、ケネディ：宇宙計画…。
	ラテンアメリカ五〇〇年：歴史のトルソー / 清水透著 岩波書店, 2017.12 【岩波現代文庫】 255-Sh49Lb 朝日18.2.18 征服、植民地化、独立闘争、アメリカの裏庭化…。近代を象徴する歴史過程で、人々はいかに生きてきたのか。
伝記	暗い時代の人々 / 森まゆみ著 亜紀書房, 2017.5 281.04-Mo451k 朝日17.7.9 最も精神の抑圧された、1930年から45年の暗い時代に、精神の自由を掲げて戦った人々は、何を考えていたのか。
	安倍三代 / 青木理著 朝日新聞出版, 2017.1 288.3-A12a 毎日17.3.26 母方の祖父・岸信介を慕う安倍晋三首相には、もうひとつの系譜がある。反戦の政治家として軍部と闘った父方の祖父・寛。その後を継ぎ若くして政治の道に入った父・晋太郎。誰も知らない「三代目」の姿を照らす。アエラ連載に大幅加筆。

伝記

平成の終焉：退位と天皇・皇后 / 原武史著 岩波書店, 2019.3 (岩波新書1763) S-288.41-H31h 朝日19.4.27読売5.5 平成とは天皇制の新たなスタイルが確立された時代だった。日本中をくまなく訪ね歩き、自らの思いを国民に直接語りかけてきた天皇明仁と皇后美智子。二人が生み出した「平成流」は退位後も受け継がれていくのか。皇太子(妃)時代からの足跡を丹念にたどり、「象徴」と国民との奇妙な政治的関係性を問い直す。
鶴見俊輔伝 / 黒川創著 新潮社, 2018.11 289.1-Ts85k 毎日19.1.13朝日1.19読売2.10 戦後を代表する思想家の93年の歩み。本格的かつ決定的評伝。後藤新平を祖父に、鶴見祐輔を父に生まれた鶴見俊輔。不良化の末、渡米してハーヴァードに入学。日米交換船で帰国して敗戦を迎える。その後の50年にわたる『思想の科学』の発行、「ベ平連」の活動、「もうろく」を生きる方法まで。稀代の哲学者の歩みと思想に迫る。
運命：文在寅自伝 / 文在寅著；矢野百合子訳 岩波書店, 2018.10 289.2-Mu32m 日経18.12.1東京19.2.24 なぜ、金正恩と対話したのか。なぜ、朴槿恵大統領の弾劾・罷免ののち、新大統領に選ばれたのか。これから韓国政治、そして東アジア情勢はどうなるのか？ その答えは、人間・文在寅の苦難の道のりの中にある。「問題児」から「人権弁護士」への足跡、そして運命を導いた故・盧武鉉大統領との歩みを綴ったベストセラー。
1924：ヒトラーが“ヒトラー”になった年 / ピーター・ロス・レンジ著；菅野楽章訳 亜紀書房, 2018.3 289.3-H77re 読売18.4.1 一介の“チンピラ”にすぎなかった男は、如何にして“総統”になったのか。1924年はヒトラーが挫折を栄光に変える転換の年でもあった。ミュンヘン一揆に敗れ、獄中で過ごしたヒトラーの一年に肉薄する歴史ノンフィクション。
ある奴隷少女に起こった出来事 / ハリエット・アン・ジェイコブズ [著]；堀越ゆき訳 新潮社, 2017.7 289.3-J122j.h 読売17.7.30朝日8.6 好色な医師フリの奴隷となった美少女、リンダ。卑劣な虐待に苦しむ彼女は、自由を掴むため決意した。
マーティン・ルーサー・キング：非暴力の闘士 / 黒崎真著 岩波書店, 2018.3 【岩波新書】 S-289.3-Ki43k 読売18.4.22 人びとを非暴力による社会変革へと導いたキング牧師(一九二九-一九六八)。栄光の前半生だけでなく、貧困のないアメリカを夢見た彼の後半生を忘れてはならない。武器をとらずに闘い抜いた、苛烈な生涯をえがく。
マルクス：ある十九世紀人の生涯 / ジョナサン・スパーバー著；小原淳訳 白水社, 2015.7 289.3-Ma59sb-1,2 日経15.8.23 マルクスの思想や政治活動はもちろん、その私生活も網羅して、三つの要素を連関させながら、全体像を描く。
ウィリアム・モリスの遺したもの：デザイン・社会主義・手ごと・文学 / 川端康雄著 岩波書店, 2016.12 289.3-Mo781k 朝日17.2.5 一九世紀、ヴィクトリア朝を代表する詩人、デザイナーであり、社会主義者でもあったウィリアム・モリスの軌跡。
「砂漠の狐」ロンメル：ヒトラーの将軍の栄光と悲惨 / 大木毅 [著] KADOKAWA, 2019.3 289.3-R661o 【角川新書】 朝日19.4.13 ヒトラーの忠実なる“軍人”か、誠実なる“反逆者”か。第二次世界大戦を動かした男の虚像と実像を暴く。
マルコムX：伝説を超えた生涯 / マニング・マラブル著；秋元由紀訳 白水社, 2019.2 289.3-X1mb-1, 2 日経19.3.30 『自伝』や映画によって作り上げられた虚像を排し、生家の家族史から街のチンピラ時代、ブラック・ムスリムとしての活動、暗殺、死後の評価に至るまで、人間マルコムXの生涯を編年体で記した本格評伝。ピューリッツァー賞受賞作品。
探検家の事情 / 角幡唯介著 文藝春秋, 2019.4 【文春文庫】 290.9-Ka28tb 読売19.4.14 『極夜行』で第1回「Yahoo!ニュース   本屋大賞ノンフィクション本大賞」&大佛次郎賞のW受賞。探検とは日常を飛びだし、非日常の世界で未知をさぐる行為である。しかし、探検家といえども、四六時中、非日常の領域にいるわけではない。不惑をむかえた探検家が、セイウチに殺されかけたりしつつも、妻とケンカしたり、娘を叱ったりする日常を綴ったエッセイ集。
極夜行 / 角幡唯介著 文藝春秋, 2018.2 297.8-Ka28k 読売18.2.25朝日3.4毎日3.25 地球上には太陽光が何カ月も届かない「極夜」というものがあるという。著者はそのまっくら闇を約4カ月間ひとり+犬1匹で探検し、現代人が忘れつつある、闇や太陽への原初感覚を体験しようと試みる。渾身の探検記録。
テレビに映らない北朝鮮 / 嶋下ひろみ著 平凡社, 2018.3 【平凡社新書870】 302.21-Ka41t 毎日18.5.20 「不機嫌な独裁者」はどんな理想像を描き、国際社会といかに折り合いをつけるのか。この国の庶民はどんな息遣いをしているか。30年にわたる取材の成果を軸に描く、テレビには映らない北朝鮮の断層。
ガザの空の下：それでも明日は来るし人は生きる / 藤原亮司著 インプレス(発売), 2016.5 302.285-F68g 毎日16.6.12 紛争が長く続くなか、筆舌に尽くしがたい過酷な環境で生きるガザの人々の深い悲しみと強い怒り。入魂のルポ。
ガザに地下鉄が走る日 / 岡真理 [著] みすず書房, 2018.11 302.285-O36g 毎日18.12.16朝日19.1.26 イスラエル建国とパレスチナ人の難民化から70年。高い分離壁に囲まれたパレスチナ・ガザ地区は「現代の強制収容所」と言われる。そこで生きるとは、いかなることだろうか。
天井のない監獄ガザの声を聴け! / 清田明宏著 集英社, 2019.5 (集英社新書) 302.285-Se19t 赤旗19.7.21 約550万人のパレスチナ難民を支援するUNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)。医療・教育・社会福祉をおこない、活動範囲はヨルダン・レバノン・シリア、さらに東エルサレムを含むヨルダン川西岸とガザのパレスチナ暫定自治区に及ぶ。UNRWA保健局長としての日々の活動から、そこに生きる市井の人々の声を届ける。

紀行

政治・経済・社会

社会思想

不寛容な時代のポピュリズム / 森達也著 青土社, 2017.6 304-Mo454f  
 日経17.6.10 なぜ社会はこれほど感情的になったのか。フェイクが蔓延する時代、各々は何を考え、どう行動すればいいのか。

日本の気配 / 武田砂鉄著 晶文社, 2018.4 304-Ta592n  
 東京18.6.10 一億総付度社会の日本を覆う「気配」の危うさを、政治、社会的事件、流行現象からあぶり出すフィールドワーク。

日本が売られる / 堤未果著 幻冬舎, 2018.10 (幻冬舎新書517) 304-Ts941n  
 朝日18.12.1 新書大賞2019第4位 水と安全はタダ同然、医療と介護は世界トップ。そんな日本に今、とんでもない魔の手が伸びているのを知っているだろうか？ 法律が次々と変えられ、米国や中国、EUなどのハゲタカどもが、我々の資産を買いあさっている。水やコメ、海や森や農地、国民皆保険に公教育に食の安全に個人情報など、日本が誇る貴重な資産に値札がつけられ、叩き売りされているのだ。

資本主義リアリズム：「この道しかない」のか？ / マーク・フィッシャー著；セバスチャン・プロイ, 河南 瑠莉訳 堀之内出版, 2018.2 309-F28s  
 週刊読書人18.4.20 「資本主義リアリズム」とは、資本主義が唯一の存続可能な政治・経済的制度であるのみならず、今やそれに対する論理一貫した代替物を想像することすら不可能だ、という意識が蔓延した状態のことだ。「資本主義リアリズム」のイデオロギーに対抗するためには、どうしたらいいのか。

リバタリアニズム：アメリカを揺るがす自由至上主義 / 渡辺靖著 中央公論新社, 2019.1 C-309.1-W46L  
 (中公新書2522)  
 日経19.3.9 アメリカ社会に広がりつつあるリバタリアニズム(自由至上主義)。公権力を極限まで排除し、自由の極大化をめざす立場だ。リベラルのように人工妊娠中絶、同性婚に賛成し、死刑や軍備増強に反対するが、保守のように社会保障費の増額や銃規制に反対するなど、従来の左右対立の枠組みではとらえきれない。トランプ政権誕生後のアメリカ各地を訪れ、報告。

政治学

社会契約論/ジュネーヴ草稿 / ルソー著；中山元訳 光文社, 2008.9 【光文社古典新訳文庫】 311-R76s.nb  
 朝日17.8.20 人民に主権があると主張し、その思想はのちのフランス革命を導くこととなった歴史的著作。

ハンナ・アーレント：「戦争の世紀」を生きた政治哲学者 / 矢野久美子著 中央公論新社, 2014.3 C-311.28-A68y  
 読売14.5.4日経5.11 全体主義と対決し、「悪の陳腐さ」を問い、公共性を求めつづけた政治哲学者の生涯を描く評伝。

定本想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行 / ベネディクト・アンダーソン著；白石隆, 白石さや訳 書籍工房早山 図書新聞 (発売), 2007.7 311.3-A46.a-S  
 朝日17.9.17 ナショナリズム研究の必読書にして新古典。「国民はイメージとして心の中に想像されたものである」

「右翼」の戦後史 / 安田浩一著 講談社, 2018.7 (講談社現代新書2485) 311.3-Y62u  
 日経18.9.22 消えゆく戦前右翼、反米から「親米・反共」、政治・暴力組織との融合、新右翼の誕生、宗教右派の台頭と日本会議の躍進、ネット右翼の跋扈など、戦後右翼の変遷をたどる。

マキアヴェッリ：『君主論』をよむ / 鹿子生浩輝著 岩波書店, 2019.5 【岩波新書1779】 S-311.6-Ma16kYk  
 読売19.6.16 権謀術数を是とする政治家、人心掌握術に長けた戦略家…。政治学の古典として、マキアヴェッリのバイブルとして、今も愛され続ける『君主論』。しかし、マキアヴェッリの本当の思想は、彼が生きた時代から理解しなければ見えてこない。祖国と家族、自由と人間を愛した彼が、真に伝えたかったこととはいったい何だったのか。

民主主義の死に方：二極化する政治が招く独裁への道 / スティーブ・レビツキー, ダニエル・ジブラット著；濱野大道訳 新潮社, 2018.9 311.7-L57m  
 日経18.12.8朝日19.1.26 2016年、アメリカで、独裁的傾向をもつ男が大統領に選ばれた。ハンガリーやトルコ、ポーランドでポピュリズム政権が民主主義を攻撃し、ヨーロッパの各地で過激派勢力が議席を伸ばした。今、世界中で民主主義がゆっくりと静かに殺されている。世界の民主主義の現状を分析し、将来に向けて打つべき提言する。日本の未来をも暗示する警世の書。

ポピュリズムとは何か：民主主義の敵か、改革の希望か / 水島治郎著 中央公論新社, 2016.12 C-311.7-Mi96p  
 【中公新書】  
 日経17.2.26朝日3.19 各国のポピュリズム政党・政治家の姿を描き、「デモクラシーの影」ともいわれるその本質に迫る。

政治史

戦前日本のポピュリズム：日米戦争への道 / 筒井清忠著 中央公論新社, 2018.1 【中公新書2471】 C-312.1-Ts93s  
 日経18.2.24東京読売2.25 ポピュリズムが劇場型大衆動員政治を意味するのであれば、日本は戦前期に経験があった。

風刺画で読み解くイギリス宰相列伝：ウォルポールからメイジャーまで / ケネス・ベイカー著；松村昌家訳 ミネルヴァ書房, 2018.5 312.33-B15f  
 朝日18.6.2 約270年にわたる歴代イギリス宰相の足跡を、一流の風刺画家たちの作品でたどる。もう一つのイギリス政治史。

候補者ジェレミー・コービン：「反貧困」から首相への道 / アレックス・ナンズ著；藤澤みどり, 荒井雅子, 坂野正明訳 岩波書店, 2019.4 312.33-N99k  
 毎日19.4.21朝日6.8 32年にわたる万年ヒラ議員から、まさかの労働党党首へ。ジェレミー・コービンを押上げたのは、反緊縮のうねりのなか生まれた、SNSを駆使する新しい市民参加型政治運動だった。この「コービン運動」は、旧来の労組をも巻き込み、ニューレイバーの失墜でどん底状態にあった労働党に奇跡を起こす。英国の政党政治は大きく変わろうとしている。

ルポトランプ王国：もう一つのアメリカに行く / 金成隆一著 岩波書店, 2017.2 S-312.53-Ka46r  
 毎日朝日17.3.12 なぜトランプなのか。山あいのバー、ダイナー、床屋、自宅にて、将来を案ずる勤勉な人たちの生の声を聴く。

政治事情	NOでは足りない：トランプ・ショックに対処する方法 / ナオミ・クライン [著]；幾島幸子，荒井雅子 訳 岩波書店，2018.7 312.53-KL4n 朝日18.10.13 規制国家の解体、福祉国家と社会福祉事業に対する徹底的な攻撃、移民と「イスラム過激派によるテロ」に対する文明的な戦い…。この脅威に対して「NO」と言うだけでは足りない。際限のない収奪と蕩尽に基づく社会から、思いやりと再生に基づく社会へ。みなが望み必要とするビジョンをつくり、実現するために、私たちはたゆまぬ努力をつづけなければならない。トランプへの怒りをもとに、切るような迫力の筆致で書き上げられた、人類と地球の未来のための警世と行動の書。
	大統領とハリウッド：アメリカ政治と映画の百年 / 村田晃嗣著 中央公論新社，2019.2 C-312.53-Mu59d (中公新書2527) 東京19.4.7 ハリウッド映画はアメリカ大統領を描き続けてきた。作中の大統領には人々の不満や希望が投影される一方、現実の政治はF.D.ローズヴェルトからケネディ、レーガンと時代が進むにつれ、ハリウッド流のイメージ戦略を活用していく。
国家と個人	誰がタブーをつくるのか？ / 永江朗著 河出書房新社，2014.8 316.1-N13d 東京15.1.11 タブーはいかにして、誰のために生まれたのか？誰も教えてくれないタブーの正体と、それを無力化する思考法。
	ライシテから読む現代フランス：政治と宗教のいま / 伊達聖伸著 岩波書店，2018.3 S-316.2-D44L (岩波新書1710) 赤旗18.6.17 数々のテロ事件を受け、フランスはいま政治と宗教、共生と分断のはざままで揺れている。ライシテとは何か。憲法1条が謳う「ライクな(教育などが宗教から独立した、非宗教的な、世俗の)共和国」は何を擁護しようのか。現代の難題を考える。
民族・人種問題	新・日本の階級社会 / 橋本健二著 講談社，2018.1【講談社現代新書2461】 316.3-H38s 東京18.3.18 40年間の政府の無策により、日本は、金持ち以外には非常に生きるのが困難な、恐るべき社会になってしまった。
	労働者階級の反乱：地べたから見た英国EU離脱 / ブレイディみかこ著 光文社，2017.10 316.34-B71r 【光文社新書912】 長周新聞17.11.22 全世界を驚かせた2016年6月の英国国民投票でのEU離脱派の勝利。海外では「下層に広がった醜い排外主義の現れ」とする報道が多かったが、英国国内では「1945年以来のピープル(労働者階級)の革命」と評す向きも多かった。ブレグジットは、グローバル主義と緊縮財政により社会のアウトサイダーにされた労働者階級が投じた怒りの礫だったのだ。
行政	チャヴ：弱者を敵視する社会 / オーウェン・ジョーンズ著；依田卓巳訳 海と月社，2017.7 316.34-J72c ハフポスト17.8.2 サッチャー政権の誕生から今にいたるまで、イギリスで推し進められてきた新自由主義。緊縮財政、民営化、規制緩和、自己責任の大合唱は、イギリス社会とそこで生きる人々の生活をどう破壊していったのか。
	革命について / ハンナ・アレント著；志水速雄訳 筑摩書房，1995.6 [ちくま学芸文庫] 316.5-A68k 朝日17.5.14 アレントは、アメリカ独立革命とフランス革命を考察し、自由な公的空間を保障する政治体として前者を評価する。
外交	アメリカの排外主義：トランプ時代の源流を探る / 浜本隆三著 平凡社，2019.1 (平凡社新書902) 316.853-H24a 東京19.3.3 トランプ大統領の自国第一主義、「アメリカ・ファースト」が世界を翻弄し、排外主義の波が起きている。魔女狩りや秘密結社、黒人奴隷制に遡り、歴史的な座標軸から現代の問題を捉えなおす。世界的な排外主義の源流とその力学を解明。
	ルポ地域再生：なぜヨーロッパのまちは元気なのか？ / 志子田徹著 イースト・プレス，2018.2 318.93-Sh34r 【イースト新書096】 毎日18.4.1 欧州の地方を歩くと、日本に比べてずっと元気に見えた。人口減少、観光客減、空き家の増加、地方切り捨て、経済危機、農業の衰退、旧産炭地の疲弊……。それらの危機に立ち向かってきた現場の人たちの原動力と取り組みに迫る。
国際問題	誰が世界を支配しているのか？ / ノーム・チョムスキー著；大地舜，榊原美奈子訳 双葉社，2018.2 319-C53d 西日本18.3.9 なぜ、民主主義は世界中で力を失い、不寛容な世界が広がるのか？なぜ、沖縄は米軍基地であり続けるのか？なぜ、御用メディアや御用知識人がはびこるのか？そして、この世界でわれわれは、どうやって生き延びるべきか？皮肉と毒舌たっぷりの「チョムスキー節」で、この世界の「なぜ」を解き明かす。
	戦後史の正体：1945-2012 / 孫崎享著 創元社，2012.8 319.1053-Ma291s PRESIDENT12.11.12 日本の戦後史は、米国からの圧力を前提に考察しなければ、本質が見えない。戦後70年の真実とは。
国際問題	「日米指揮権密約」の研究：自衛隊はなぜ、海外へ派兵されるのか / 末浪靖司著 創元社，2017.10 319.1053-Su18n 中国17.11.28 「戦争になったら自衛隊は米軍の指揮下に入る」という日米の秘密の取り決め、「指揮権密約」の真実に迫る。
	日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか / 矢部宏治著 集英社(発売)，2014.10 319.1053-Y11n 朝日16.9.4 なぜ戦後70年たっても、米軍が首都圏上空を支配しているのか。日本戦後史に隠された最大の秘密とは？
国際問題	日本はなぜ、「戦争ができる国」になったのか / 矢部宏治著 集英社(発売)，2016.5 319.1053-Y11nb 東京16.8.14 1950年の朝鮮戦争勃発以来、アメリカとむすばれた数々の条約や協定が、恐るべき密約を成立させていた…。
	知ってはいけない：隠された日本支配の構造 / 矢部宏治著 講談社，2017.8【講談社現代新書2439】 319.1053-Y11s, 2 WEBRONZA17.8.28 この国を動かす「本当のルール」とは。なぜ、日本は米国の意向を拒否できないのか。官邸とエリート官僚が国民に知られたいくない、最高裁・検察・外務省の「裏マニュアル」とは。米軍が日本に駐留し続ける理由を解き明かす。
国際問題	日米地位協定：在日米軍と「同盟」の70年 / 山本章子著 中央公論新社，2019.5【中公新書2543】 C-319.1053-Y31n 読売19.6.23 日米地位協定は、在日米軍の基地使用、行動範囲、米軍関係者の権利などを保証したものである。在日米軍による事件が沖縄などで頻発するなか、捜査・裁判での優遇が常に批判されてきた。冷戦崩壊後、独伊など他の同盟国では協定は改正されたが、日本はそのままである。実際の運用が非公開の「合意議事録」で行われてきた事実など、実態を描く。



	<p>アメリカ暴力の世紀：第二次大戦以降の戦争とテロ / ジョン・W・ダワー [著] ; 田中利幸訳 岩波書店, 2017.11 朝日18.1.7読売1.14 第二次大戦および冷戦の覇者、アメリカは、どのような経緯で世界の混沌を生み出してしまったのか。</p>	319.53-D89a
憲法	<p>「日本国憲法」まっとうに議論するために / 樋口陽一 [著] みすず書房, 2015.9 朝日16.5.1 憲法の基本理念「国家」「国民」「個人」「人権」「主権」などについて、どう考えればよいのか、重要なことを解説。</p>	323.14-H56n2
	<p>9条入門 / 加藤典洋著 創元社, 2019.4 毎日19.7.8 この一冊で、すべての憲法論議は終わる。あらゆる政治的立場から離れた本当の9条の物語。その「出生の秘密」から、「マッカーサー」「昭和天皇」「日米安保」との相克をめぐる成立初期の物語。</p>	323.142-Ka861k
	<p>広告が憲法を殺す日：国民投票とプロパガンダCM / 本間龍, 南部義典著 集英社, 2018.4 【集英社新書】 朝日18.5.12 国民投票法には致命的な欠陥がある。海外では多くの国で原則禁止となっている広告規制がほとんどないのだ。</p>	323.149-H85k
刑法	<p>性表現規制の文化史 / 白田秀彰著 亜紀書房, 2017.8 HONZ17.9.13WEBRONZA11.20 「えっちなのはいけません」という社会規範は、いかにして生まれたのか。「性」は、なぜこれほどまでにタブー視されるのか。法学者が、性表現規制の東西の歴史を読み解き、その背後にある政治力学を鮮やかに描き出す。</p>	326.22-Sh86s
	<p>よみがえる戦時体制：治安体制の歴史と現在 / 荻野富士夫著 集英社, 2018.6 (集英社新書0935A) 東京18.7.22 2017年に成立、施行された「テロ等準備罪」こと共謀罪。「共謀」の判断基準も曖昧で、治安維持法との類似を指摘する識者も多い。国家の暴力装置たる警備公安警察等の権力の恣意的な運用を抑止、是正するために必要なのは何か。</p>	326.81-O25yb
	<p>入門国境学：領土、主権、イデオロギー / 岩下明裕著 中央公論新社, 2016.3 日経16.5.8 北方領土、尖閣諸島、竹島という日本の「領土問題」。その解決のヒントになるのが、国境学・境界研究である。</p>	C-329.23-I96n
国際法	<p>「国境なき医師団」を見に行く / いとうせいこう著 講談社, 2017.11 朝日18.1.7 大地震の傷跡が残るハイチ、ギリシャの難民キャンプ、フィリピンのスラム、南スーダンからの難民が100万人を超えたウガンダの国境地帯で、作家・いとうせいこうが「国境なき医師団」の活動に同行し、世界の現場を訪ねて描いた傑作ルポ。</p>	329.36-I89k
	<p>ニュルンベルク合流：「ジェノサイド」と「人道に対する罪」の起源 / フィリップ・サンズ著 ; 園部哲訳 白水社, 2018.4 毎日19.4.29日経9.1 英国ノンフィクションの最高峰「ベイリー・ギフォード賞」、「英国最優秀図書賞(ノンフィクション部門)」をダブル受賞した、英国の勅撰弁護士・国際法学者によるリーガル・サスペンス。「人道に対する罪」を国際裁判で初めて導入した国際法教授のラウターバクト、「ジェノサイド」という犯罪概念を創り出した法律家のレムキンというユダヤ系の二人、ナチ・ドイツのポーランド総督で悪名高き法律顧問のハンス・フランク、そしてユダヤ人迫害に翻弄される著者の祖父や家族たち…。それぞれの人生と運命が交錯し、戦後のニュルンベルク裁判でそれぞれが合流するまでの探索の物語を、手に汗握る筆致で描いている。「家族の物語」と「国際法発展史」が一冊になった稀有な傑作ノンフィクション。</p>	329.67-Sa62n
	<p>父が娘に語る美しく、深く、壮大で、とんでもなくわかりやすい経済の話。 / ヤニス・パルファキス著 ; 関美和訳 ダイアモンド社, 2019.3 朝日19.4.6東京5.12 ギリシャの元財務大臣の父が、十代の娘に向け、いまの世界と経済の本質を捉えきった「経済×文明論」。小説、映画から、ギリシャ神話まで、古今東西の知を総動員。◎現代の世界はどんな仕組みで動いているのか ◎なぜ一部の人たちだけに富が集中するのか ◎経済危機の裏に隠れているものは何か</p>	330-V43c
経済学	<p>アダム・スミスはブレグジットを支持するか? : 12人の偉大な経済学者と考える現代の課題 / リンダ・ユー著 ; 久保恵美子訳 早川書房, 2019.4 東京19.6.2 アダム・スミスからロバート・ソローまで、12人の偉大な経済学者の思想には、現代の課題を照らすヒントが詰まっている。BBCなどで活躍するエコノミストが彼らの業績を読み解き、解決への道筋を探る。画期的な経済思想&amp;現代経済入門。</p>	331.2-Y96a
	<p>カール・ポランニーの経済学入門：ポスト新自由主義時代の思想 / 若森みどり著 平凡社, 2015.8 週刊読書人15.11.27 ポランニーの思想には、「人間のための経済」への想像力がある。自由とは何か、良き社会とは何か。</p>	331.2346-P76k
	<p>プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 / マックス・ヴェーバー著 ; 大塚久雄訳 朝日18.4.21 営利の追求を敵視するピューリタニズムの経済倫理が近代資本主義の生誕に貢献したという逆説を究明した論考。</p>	B-331.5-W51ph2
経済思想	<p>マルクス資本論の哲学 / 熊野純彦著 岩波書店, 2018.1 【岩波新書1696】 日経(夕刊)18.5.14図書新聞7.21 マルクスの原理的な思考の深度と強度、そして「資本制が押しつぶしてゆくちいさな者たちへの視線」に寄り添いつつ語る、本格的入門書。</p>	S-331.6-Ma59sYk
	<p>マルクス資本論 / 佐々木隆治著 KADOKAWA, 2018.7 【角川選書1001】 読売18.9.23 今、資本主義が大きな転換点を迎えている。経済の停滞、政治の空洞化…。苦しみを乗り越えて新しい社会を作るとき、『資本論』は、誰にでも手に取ることのできる「最強の理論的武器」となりうる。難解な部分は徹底的に噛み砕いて解説。</p>	331.6-Ma59sYsc
	<p>市場って何だろう：自立と依存の経済学 / 松井彰彦著 筑摩書房, 2018.7 (ちくまプリマー新書302) 読売18.8.19 自立のための様々な依存先を提供しうる市場という存在。市場をゲーム理論で読み解きながらそのあり方・可能性を考える。</p>	331.845-Ma77s

経済学

経済思想

経済史

経済体制

移民

企業

経営

大不平等：エレファントカーブが予測する未来 / ブランコ・ミラノヴィッチ [著]；立木勝訳 みすず書房, 2017.6 331.85-Mi26d 朝日17.7.16読売7.23日経8.5毎日8.13 エレファントカーブと呼ばれるグラフは、中国などのグローバル中間層、先進国の超富裕層の所得が、ベルリンの壁崩壊からリーマンショックの間に、急伸しているのに対して、先進国の中間層の所得が停滞していることを示している。今世紀の世界的不平等の行方と、その帰結としての政治・経済情勢を予測した、格差研究の基本書である。
大脱出：健康、お金、格差の起原 / アンガス・ディートン [著]；松本裕訳 みすず書房, 2014.10 331.872-D51d 読売15.1.4朝日1.11日経1.18 250年間の歴史的にたどり、成長と健康の関係を分析し、格差のメカニズムを解き明かす。
エコミックス：マンガで読む経済の歴史 / マイケル・グッドウィン著；ダン・E・バー画；脇山美伸訳 みすず書房, 2017.3 332-G65e WEB本の雑誌17.4.27日経5.3 350年の歴史と今を語る経済マンガ。経済理論を考えだした学者たち、グローバル化、財政赤字、景気回復、戦争、気候変動、エネルギー問題と経済の関係など、ユーモラスなマンガで、経済の実態と課題が一目瞭然。
入門資本主義経済 / 伊藤誠著 平凡社, 2018.2 【平凡社新書866】 332.06-I89n 日経(夕刊)18.5.14 不況、格差、貧困問題…。新自由主義により解き放たれた競争の市場経済は、何をもたらしたのか。
経済史：いまを知り、未来を生きるために / 小野塚知二著 有斐閣, 2018.2 332-O671k 朝日18.4.7 経済活動を推し進めてきたものは何か？どこへ向かうのか？経済はなぜ成長するのか？人類はいかにして生存してきたのか？経済はいかに成長してきたのか？これらの問いを入口として、近代前から、分業、市場、貨幣といった経済学の用語のみならず、権力、文化、共同体等人文科学の基本的な概念も用いて俯瞰する歴史。
平成経済衰退の本質 / 金子勝著 岩波書店, 2019.4 【岩波新書1769】 S-332.106-Ka53h 東京19.6.9朝日6.15 バブルとバブルの崩壊から始まった平成時代。マクロ経済政策も、規制緩和と中心の構造改革も、「失われた20年」を克服できないどころか、症状を悪化させてきた。セーフティネット概念の革新、反グローバリズム、長期停滞、脱原発成長論などをキー概念に、一貫して未来を先取りした政策提案を行ってきた著者による30年の痛烈な総括。
アメリカンドリームは終わった：あるいは、富と権力を集中させる10の原理 / ノーム・チョムスキー [著]；寺島隆吉, 寺島美紀子訳 ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2017.10 332.53-C53a 東京17.11.19 極端な格差社会と成り果てた現在のアメリカ。背後にある社会的、政治的な変化を歴史的資料を基に語る。
人口減少社会の未来学 / 内田樹編；池田清彦 [ほか] 著 文藝春秋, 2018.4 334.31-J52k 毎日18.6.24 21世紀末、日本の人口は約半数に。人口減少社会の「不都合な真実」をえぐり出し、文明史的スケールの問題に挑む「生き残るため」の論考集。各ジャンルを代表する第一級の知性が贈る、新しい処方箋がここに。
世界史を「移民」で読み解く / 玉木俊明著 NHK出版, 2019.2 (NHK出版新書575) 334.4-Ta78s 東京19.3.10週刊読書人5.24 ヨーロッパをはじめとする先進国が、難民を排除できないのはなぜか。いま、世界中で議論の的となっている「移民」をキーワードに、世界史を明快に読み解く一冊。
ふたつの日本：「移民国家」の建前と現実 / 望月優大著 講談社, 2019.3 (講談社現代新書2516) 334.41-Mo12f 朝日19.5.18 日本はすでに「移民国家」だ。この30年間で在日外国人の数は94万人から263万人へと約3倍に増加し、永住権を持つ外国人も100万人を突破した。いま必要なのは、この「遅れてきた移民国家」の簡単な見取り図だ。
移民の政治経済学 / ジョージ・ボージャス著；岩本正明訳 白水社, 2018.1 334.453-B65i 日経18.2.17読売2.25 移民は商品ではない、生身の人間だ。労働市場に与えるインパクトから財政への影響まで、キューバ移民でハーバード教授が移民をめぐる通説を根底から覆す記念碑的著作。
移民からみるアメリカ外交史 / ダナ・R.ガバッチャ著；一政(野村)史織訳 白水社, 2015.12 334.453-G11i 読売16.1.24朝日2.28 移民が構築する越境的なネットワークとアメリカの移民史、外交史、政治史をグローバルな視点で論じる。
移民国家アメリカの歴史 / 貴堂嘉之著 岩波書店, 2018.10 (岩波新書1744) S-334.453-Ki13i 朝日18.12.15 アメリカ合衆国は「移民の国」—誰もが口にするこの国のかたちは、どう形成され、いかに変貌してきたのか。日本や中国などアジア系移民の歴史経験に着目して、アメリカ史をとらえなおす。
ルポ不法移民とトランプの闘い：1100万人が潜む見えないアメリカ / 田原徳容著 光文社, 2018.10 (光文社新書971) 334.453-Ta19r 読売18.12.毎日19.7.7 トランプ大統領の就任後、「移民の国」アメリカは様々な形で不法移民への圧力を強めている。受け入れるか、拒むか、それとも無視か。読売新聞ロサンゼルス特派員が、150人に上る不法移民とその周辺を追いかけた渾身のルポ。
奴隷船の歴史 / マーカス・レディカー [著]；上野直子訳 みすず書房, 2016.6 334.7-R22d 読売16.12.25 400年間に、1240万人の奴隷がアフリカから南北アメリカに運ばれ、プランテーションの無賃労働者となった…。
3つのゼロの世界：貧困0・失業0・CO2排出0の新たな経済 / ムハマド・ユヌス著；山田文訳 早川書房, 2018.2 335.8-Y98m 朝日18.3.25 貧困者のための銀行・グラミン銀行を創設し、母国バングラデシュの貧困を大きく軽減した功績によりノーベル平和賞に輝いたユヌス博士。グラミン・グループと関連団体の活動をもとに、人類が直面する課題を解決するための具体策を語る。
「承認欲求」の呪縛 / 太田肇著 新潮社, 2019.2 【新潮新書800】 336.4-O815sc 読売19.4.7 なぜわが国では「承認欲求の呪縛」が起きやすいのか、しかもますます深刻になっていくのか。呪縛が生じるメカニズムを明らかにするとともに、多くの事例を用いながら効果的な対策を示す。

貨幣	「通貨」の正体 / 浜矩子著 集英社, 2019.1 (集英社新書0965A) 337.2-H22t 東京19.3.17 通貨を通貨たらしめているものは何なのか? 国家の威信なのか、金(ゴールド)なのか、あるいは…。脆弱な通貨の「正体」を見極めないまま、世界各国は莫大な財政赤字を積み上げ、金融政策を行っている。通貨の本質をえぐる必読の書。
	ウェルス・マネジャー富裕層の金庫番：世界トップ1%の資産防衛 / ブルック・ハリントン [著]；庭田 よう子訳 みすず書房, 2018.2 338-H331w 朝日18.3.11日経4.14 大富豪の資産管理を生業とするウェルス・マネジャー。社会学者である著者は、ウェルス・マネジャーになる訓練を2年間受け、8年間で65人を取材した。世界規模でマネーを操る錬金術を、冷静に分析した初の試み。
通貨	平成金融史：バブル崩壊からアベノミクスまで / 西野智彦著 中央公論新社, 2019.4 C-338.21-N85h 【中公新書2541】 毎日19.6.2 バブル崩壊後、長期低迷にあえぐ日本経済。金融当局は何を考え、何を見誤ったのか。取材をもとに「金融失政の30年」を検証する。
	バブル経済事件の深層 / 奥山俊宏, 村山治著 岩波書店, 2019.4 【岩波新書1774】 S-338.21-O57b 東京19.6.16 バブル崩壊がきっかけとなって発生した数々の経済事件。それらはやがて、日本の金融・行政システムをも揺るがし、長年にわたって日本経済を苦しめることになった。新証言や新資料を発掘し、新たな視点から重要な事件を再検証。
金融	パナマ文書 / バスティアン・オーバーマイヤー, フレデリック・オーバーマイヤー著；姫田多佳子訳 345.1-O13p KADOKAWA, 2016.8 日経16.10.23 パナマ文書にはプーチンやアサドなど国家元首や独裁者、大富豪が何人も登場し、極秘データが暴かれている。
	金持ち課税：税の公正をめぐる経済史 / ケネス・シーヴ, デイヴィッド・スタサヴェージ [著]；立木 勝訳 みすず書房, 2018.6 345.3-Sc2k 朝日18.8.4 世界的に不平等が拡大する中、税による解決は可能なのか？「素晴らしい本だ。包括的でありながら読みやすい形で、前世紀に、欧米と日本で、所得と遺産への高い累進課税がどのように推移したかを描いている」トマ・ピケティ
租税	オフショア化する世界：人・モノ・金が逃げ込む「闇の空間」とは何か？ / ジョン・アーリ著；[高岡文 章ほか訳] 明石書店, 2018.9 361-U86o 日経19.1.5 1990年以降急速に進んだ新自由主義経済と移動に関する技術革新を背景に、国境を超えた労働・金融・娯楽・廃棄物・エネルギー・気候変動やセキュリティの移動が「富裕層の一人勝ち」を引き起こす「オフショア化」を分析し、そこからの脱却の道を探る。
	社会学史 / 大澤真幸著 講談社, 2019.3 【講談社現代新書2500】 361.2-O74s 毎日19.5.5 マルクスもフロイトもフーコーも、実は社会学者なんです。アリストテレスからカンタン・メイヤーまで、知の巨人が産み出した思想を、網羅的に、平易な講義文体で学びましょう。
社会学	官僚制のユートピア：テクノロジー、構造的愚かさ、リベラリズムの鉄則 / デヴィッド・グレーバー著；酒井隆史訳 以文社, 2017.12 361.4-G75k 図書新聞18.3.17朝日5.12 政府による経済介入の縮小政策は、より多くの規制、官僚、警察官を生み出すという「リベラリズムの鉄則」が描かれる。自由な市場経済を維持するためには、絶対主義の数千倍のお役所仕事が必要になるという逆説を指摘。
	エスタブリッシュメント：彼らはこうして富と権力を独占する / オーウェン・ジョーンズ著；依田卓巳 訳 海と月社, 2018.12 361.4-J72e 週刊読書人19.2.22 国に「たかって」いるのは本当は、誰か。新自由主義・緊縮財政で、国民を騙し、困窮させ、分断する一方で、臆面もなく自らの栄華を誇る人々の姿。イギリスと同じ不正義が、いま日本でも進行している。『チャヴ』著者、怒りの第2弾。
社会保障	日本の分断：切り離される非大卒若者(レッグス)たち / 吉川徹著 光文社, 2018.4 361.4-Ki22n 【光文社新書945】 東京18.5.20 日本社会の底堅さを支える非大卒若者(レッグス)を社会の宝と捉え、配慮と共生を図ることの重要性を訴える。
	一緒にいてもスマホ：SNSとFTF / シェリー・タークル著；日暮雅通訳 青土社, 2017.3 361.5-Tu6i 日経17.4.15 スマホの便利さと引き換えに失ったものとは。家庭、学校、職場で起きている問題をインタビューをもとに分析。
住宅問題	流言のメディア史 / 佐藤卓己著 岩波書店, 2019.3 (岩波新書1764) S-361.54-Sa85r 読売19.5.12東京5.19日経6.15 流言蜚語、風評、誤報、陰謀論、情報宣伝…。現代史に登場したメディア流言の「真実」を見極め、影響を再検証するメディア論。マスメディアの責任をただ追及していればよかった安楽な「読み」の時代はすでに終わり、一人ひとりが情報発信の責任を引き受ける「読み書き」の時代となっている。
	ゾンビ学 / 岡本健著 人文書院, 2017.4 361.6-O421z 日経17.6.3 映画、マンガ、アニメなど、ゾンビ・コンテンツが世界で増殖を続ける理由とは。この現象から何が読み取れるのか。
	隷属なき道：AIとの競争に勝つ：ベーシックインカムと一日三時間労働 / ルトガー・ブレグマン著；野中香方子訳 文藝春秋, 2017.5 364-B72r 朝日17.7.30 最大の問題は、人間がAIとロボットとの競争に負けつつあること。その結果「中流」は崩壊し、貧富の差は有史上、もっとも広がる。それに対する処方箋は、人々にただでお金を配ること、週の労働時間を15時間にする、そして国境線を開放することである。それこそが、機械への『隷属なき道』となる。
	団地と移民：課題最先端「空間」の闘い / 安田浩一著 KADOKAWA, 2019.3 365.35-Y62d 朝日19.5.4 団地。そこは、かつて「夢と希望の地」だった。しかし、いまは都会の限界集落と化している。高齢者と外国人労働者が居住者の大半を占め、さらにそこへ“非居住者”のネットウヨはじめ排外主義者が群がる。排外主義的なナショナリズムに世代間の軋轢、都市のスラム化、そして外国人居住者との共存共栄…。地べたからのルポルタージュ。

<p><b>食いつめものブルース：3億人の中国農民工 / 山田泰司著</b> 日経BP社，日経BPマーケティング（発売）, 2017.11 366.222-Y19k  日経18.1.13 貧しくても、学歴がなくても、田舎者でも、希望を胸に生きてきた。けれど、繁栄から取り残された…。磐石の習近平政権を、絶望した3億人の農民工たちが揺さぶろうとしている。</p>
<p><b>小説・女工哀史 / 細井和喜蔵作</b> 岩波書店，2018.10-2018.12 【岩波文庫】 B-366.35-H94s-1,2  朝日19.1.26 丹後ちりめんの里と大阪を舞台とする『女工哀史』著者の自伝的小説。両親を失い、機屋の奉公人として働き始めた少年は、近代化の歯車が労働者を呑み込む中を生きる。少年の目に映る故郷の美しくも酷い情景、志の行く末は？『工場』と二部作。</p>
<p><b>移民クライシス：偽装留学生、奴隷労働の最前線 / 出井康博著</b> KADOKAWA，2019.4 366.8-I19i  （角川新書）  エコノミスト19.5.28 改正入管法が施行され、「移民元年」を迎えた日本。その陰で食い物にされる外国人たち。コンビニ「24時間営業」や「398円弁当」が象徴する日本人の便利で安価な暮らしを最底辺で支える奴隷労働の実態に迫る。</p>
<p><b>奴隷労働：ベトナム人技能実習生の実態 / 巢内尚子著</b> 花伝社，共栄書房（発売），2019.3 366.8-Su73d  朝日19.5.18 急増するベトナム人技能実習生が見た、もう一つの〈日本〉詳細な聞き取りで明らかになる驚くべき実態。仲介ビジネスの横行で、多額の渡航前費用を借金し来日するベトナム人実習生たち。</p>
<p><b>説教したがる男たち / レベッカ・ソルニット著；ハーン小路恭子訳</b> 左右社，2018.9 367.2-So34s  週刊読書人18.10.19 性暴力やドメスティック・バイオレンスは蔓延し、それでいて、加害者の圧倒的割合が男性であることには触れられない。女性たちの口をつぐませ、ときに死に迫りやる暴力の構造をあばき出し、想像力と言葉を武器に、立ち上がる勇気を与える希望の書。</p>
<p><b>バッド・フェミニスト / ロクサーヌ・ゲイ [著]；野中モモ訳</b> 亜紀書房，2017.2 367.253-G29b  HONZ17.2.8 文化から事件まで様々な話題を取りあげ、性差別と人種差別、経済格差が交差するアメリカの文化状況を読む。</p>
<p><b>カミングアウト：LGBTの社員とその同僚に贈るメッセージ / ジョン・ブラウン著；松本裕訳</b> 英治出版，2018.9 367.6-B771c  読売18.10.21日経11.17 BPを世界最大級の企業へと育て、「世界で最も尊敬されるCEO」にも選ばれた著者を、前代未聞のスキャンダルが襲った。少年期から隠し続けてきた秘密が暴露され、心も名誉も傷つき、屈辱的な辞職に至る。だが、それは新たな素晴らしい人生の始まりだった。世界的なビジネスリーダーが職業人生の中でゲイである自分を隠し続けた日々とカミングアウトの経験、そして100人以上のLGBTの人々への取材から語る、職場における性的少数者と周囲の人々へのメッセージ。</p>
<p><b>ヴァギナ / ナオミ・ウルフ著；桃井緑美子訳</b> 青土社，2014.2 367.6-W84v  朝日14.4.13 歴史、文化、芸術を横断し、精神医学や脳科学の科学分野、宗教学やタंत्रラまでも通り抜け、衝撃の真実を解明。</p>
<p><b>ルポ川崎 / 磯部涼著</b> サイゾー，2017.12 368-I85r  HONZ18.2.21 ここは、地獄か？工業都市・川崎で中1殺害事件や簡易宿泊所火災、老人ホーム転落死といった凄惨な出来事が続いたのは、偶然ではない。その街のラップからヤクザ、ドラッグ、売春、人種差別までドキュメントし、ニッポンの病巣をえぐる。</p>
<p><b>ハッピーミクス：麻薬カルテルの経済学 / トム・ウェインライト [著]；千葉敏生訳</b> みすず書房，2017.12 368-W15h  日経18.1.20週刊朝日3.2 地を這う取材と学術成果を結び付け、麻薬取引を、経済学的、経営学的に分析したノンフィクション。</p>
<p><b>自殺論 / デュルケーム著；宮島喬訳</b> 中央公論新社，2018.9 【中公文庫】 368.3-D98j2  朝日18.12.22 自殺は個人的気質の結果か、それとも社会的事実か？十九世紀ヨーロッパにおける自殺率の統計を仔細に分析し、自殺を「自戸本位的」「集団本位的」「アノミー的」「宿命的」の四タイプに分類。生の意味喪失や疎外感など、現代社会における個人の存在の危機をいち早く指摘した、近代社会学の礎となる古典的名著の完訳。索引付き。</p>
<p><b>彼女たちの売春（ワリキリ） / 荻上チキ著</b> 新潮社，2017.11 【新潮文庫】 368.4-O25k-S  HONZ17.10.30 出会い喫茶や出会い系サイトで知り合った相手に行く、個人売春=ワリキリ。彼女たちはなぜ、これを選んだのか。</p>
<p><b>大量殺人の“ダークヒーロー”：なぜ若者は、銃乱射や自爆テロに走るのか？ / フランコ・ベラルディ (ビフォ) 著；杉村昌昭訳</b> 作品社，2017.7 368.6-B38t  労働新聞17.9.17 銃乱射や自爆テロが生命を犠牲にした“表現行為”であり、現代資本主義の構造的な病理であることを解明。</p>
<p><b>殺人の人類史 / コリン・ウィルソン，デイモン・ウィルソン著；松田和也訳</b> 青土社，2016.12 368.6-W75sc-1, 2  東京17.3.26 奴隷制や食人や人身供犠、戦争がもたらした略奪や凌辱や惨殺、そして経済的格差や精神的暴力までの人類史。</p>
<p><b>ヤングケアラー：介護を担う子ども・若者の現実 / 澁谷智子著</b> 中央公論新社，2018.5 C-369.26-Sh23y  【中公新書2488】  北海道18.7.19 ヤングケアラーとは、家族の介護を行う一八歳未満の子どもを指す。超高齢社会を迎え、介護を担う若い層も増えているが、その影響は彼らの学業や日常生活にも及んでいる。人口減少時代の家族のあり方とケアの今後を問う一冊。</p>

教育	給食の歴史 / 藤原辰史著 岩波書店, 2018.11 (岩波新書1748) S-374.94-F56k 朝日18.12.22毎日12.23日経19.1.5東京1.20 子どもの味覚に対する権力行使の側面と、未来へ命をつなぎ新しい教育を模索する側面。給食は、明暗二面が交錯する「舞台」である。貧困、災害、運動、教育、世界という五つの視角から知られざる歴史に迫り、今後の可能性を探る。
	最後の秘境東京藝大：天才たちのカオスな日常 / 二宮敦人著 新潮社, 2016.9 377.28-N76s 朝日16.11.6 入試倍率は東大の3倍。卒業後は行方不明多数。芸術界の東大の型破りな日常。全学科を完全踏破した探訪記。
民俗誌	仮面の道 / クロード・レヴィ=ストロース著；山口昌男, 渡辺守章, 渡辺公三訳 筑摩書房, 2018.12 382.5-L57k 【ちくま学芸文庫】 毎日19.4.28 アメリカ北西海岸の諸部族が伝承してきた仮面。それは歴史や環境の中で、信仰や祭儀とともに組み立てられた神話世界を反映している。著者は、構造人類学の視点から、仮面という造形の裏に折り重なった意味内容とコードの体系を読解し、個人の主観を人類の共有する幻想へと繋ぐ。増補された第二部「三つの小さな旅」も本邦初訳で収録。
	食の実験場アメリカ：ファーストフード帝国のゆくえ / 鈴木透著 中央公論新社, 2019.4 C-383.8-Su961s 【中公新書2540】 週刊朝日19.6.14 先住インディアン、黒人奴隷、各国の移民らの食文化が融合したアメリカの食。そこからバーベキュー、フライドチキン、ハンバーガーなど独自の食文化が形成されたが、画一化されたファーストフードや肥満という問題をも引き起こした。そしていまアメリカでは、食を基点に農業や地域社会の姿も変えようとしている。食から読む移民大国の歴史と現在。
飲食史	人類はなぜ肉食をやめられないのか：250万年の愛と妄想のはてに / マルタ・ザラスカ著；小野木明恵訳 インターシフト, 合同出版 (発売), 2017.6 383.8-Z1j 日経17.7.22 食べ物がほかに豊富にあっても、肉食にこだわる欲求。健康にも地球環境にも良くないと言われても、人類は肉を愛し、やめられない。いったい、なぜ私たちは肉に惹きつけられるのか。急速に肉食化が進むアジア。食肉が足りなくなり、環境も悪化する地球の未来。新たな食と、栄養ステージの転換を提唱する。
	肉食の社会史 / 中澤克昭著 山川出版社, 2018.8 383.81-N46n 日経朝日18.10.13 日本人は、殺生禁断と言われて、一般的には肉食は禁じられてきたと考えられている。しかし、仏教伝来までは、どうだったのであろうか。それ以後も、鷹狩りや肉を口にしたとの記述が見られるが、庶民も同じように口にできなかったのか。これまでの、「穢れ」からくる肉食の実態に迫る。
文化人類学	江戸の糞尿学 / 永井義男著 作品社, 2016.2 383.9-N14e 読売16.4.17 日本人にとって糞尿は産業で文化だった。裏長屋から、吉原、大奥までのトイレ事情、愛欲の場所だった便所…。
	「その日暮らし」の人類学：もう一つの資本主義経済 / 小川さやか著 光文社, 2016.7 389-O241s 読売日経16.9.4東京11.6 世界には、成果主義、資本主義とは異なる価値観で、人びとが豊かに生きる社会や経済が多くある。
国防	スノーデン・ショック：民主主義にひそむ監視の脅威 / デイヴィッド・ライアン [著]；田島泰彦, 大塚一美, 新津久美子訳 岩波書店, 2016.4 391.6-L99s 毎日16.4.24 世界を震撼させた一人の若者、スノーデン。情報・通信企業も一枚絡んだ、万人監視の構造と機能が明らかに。
	「日米合同委員会」の研究：謎の権力構造の正体に迫る / 吉田敏浩著 創元社, 2016.12 395-Y86n 沖縄タイムス17.2.11 秘密会議「日米合同委員会」で合意された取り決めは日本の法律や憲法よりも、強い効力をもっている。
軍事	横田空域：日米合同委員会につくられた空の壁 / 吉田敏浩 [著] KADOKAWA, 2019.2 395-Y86y (角川新書K-247) 毎日19.3.3 羽田や成田を使用する民間機は、常に急上昇や迂回を強いられている。米軍のための巨大な空域を避けるためだ。主権国家の空を外国に制限されるのはなぜなのか。密室で決められる知られざる法体系を明らかにする。
	利己的な遺伝子 / リチャード・ドーキンス [著]；日高敏隆 [ほか] 訳 紀伊國屋書店, 2018.2 467-D47r4 日経18.6.10 ドーキンスによる「40周年記念版へのあとがき」が新たに収録された最新版。「英国史上最も影響力のある科学書」第1位。私たちはなぜ、生き延びようと必死になり、なぜ恋をし、なぜ争うのか。本書で著者は、動物や人間の社会で見られる、親子間の対立や保護行為、夫婦間の争い、攻撃やなわばり行動などがなぜ進化したかを、遺伝子の視点から解き明かす。
生物学	種の起源 / ダーウィン著；渡辺政隆訳 光文社, 2009.9 【光文社古典新訳文庫】 467.5-D42s.w 朝日16.6.12 ダーウィンの偉業は進化の研究を科学にしたこと、進化が起こるメカニズムとして自然淘汰説を提唱したことにある。
	若い読者のための第三のチンパンジー：人間という動物の進化と未来 / ジャレド・ダイヤモンド著；レベッカ・ステフォフ編著；秋山勝訳 草思社, 2015.12 469-D71w 読売16.2.7朝日17.8.27 名著『銃・病原菌・鉄』『文明崩壊』『昨日までの世界』を凝縮。人間とは何かを問う知的冒険の一冊。
動物学	セックス・イン・ザ・シー：私たち人間と、性転換をする魚、ロマンチックなロブスター、変わった性癖のイカ、そのほか海のきわどいエロスとの密接な関係 / マラー・J・ハート著；桑田健訳 講談社, 2017.8 481.72-H321s 週刊読書人17.10.28 イカ、クジラやイルカから、エイ、ロブスターまで、どんなセックスをしているか、あなたは知っていますか。
	死を悼む動物たち / バーバラ・J・キング著；秋山勝訳 草思社, 2018.2 【草思社文庫】 481.78-Ki43s 新潮45 14.11 動物たちは家族や仲間の「死」を悲しんでいるのか。これまで科学は、人間の感情を安易に動物に投影することを禁じてきた。だが近年、死をめぐる動物たちの驚くべき行動が次々と報告され、自然人類学者である著者も数年にわたる実地調査によって、その考えを変えざるを得なくなったという。

動物学	毒々生物の奇妙な進化 / クリスティー・ウィルコックス著；垂水雄二訳 文藝春秋，2017.2 481.9-W73d 毎日17.4.23 刺した獲物をゾンビにするハチ、無痛で人を殺すタコ。彼らの遺伝子には何が刻まれているのか。女性科学者が猛毒種に迫る。進化した毒は薬にもなる。世にも奇妙な毒々研究の世界。
	ウナギと人間 / ジェイムズ・プロセック著；小林正佳訳 築地書館，2016.5 487.66-P94u 朝日16.6.19 ポンペイ島のトーテム信仰から米国のダム撤去運動、産卵の謎から日本の養殖研究まで、世界中を取材した傑作。
医学	なぜペニスはそのような形なのか：ヒトについての不謹慎で真面目な科学 / ジェシー・ベリング著；鈴木光太郎訳 化学同人，2017.3 491.35-B381n 朝日17.4.9 生物学や進化心理学の視点から、人間の本性をユーモアも交え分析。性と信仰の話題、自殺についても考察する。
	デザインされたギャンブル依存症 / ナターシャ・ダウ・シュール著；日暮雅通訳 青土社，2018.7 493.74-Sc8d 読売18.8.5日経9.8 アメリカのカジノにおける主な収益源は、大金を賭ける観光客ではなく、毎日少しずつお金を賭ける地元の住人にシフトしている。それを受けてスロットマシンメーカーは、細く長くプレイが続けられるマシンを造り出し、カジノはプレイに没頭し続けられる環境を作り出す。そして、その税収をあてにする政府はカジノの規制を緩める…。この恐るべきサイクルによって、スロットマシンは日夜新たな依存症患者を生み出し続けている。2013年度グレゴリー・ベイトソン賞特別賞受賞作。
環境問題	リサイクルと世界経済：貿易と環境保護は両立できるか / 小島道一著 中央公論新社，2018.5 C-518.523-Ko39r 【中公新書2489】 日経18.6.9朝日7.7 国際リサイクルが急速に拡大するなか、各国の再生資源の獲得競争や、相手国に環境汚染を生じさせる有害廃棄物の輸出など、さまざまな問題も起こっている。知られざる現状と問題点を明らかにする。
	これがすべてを変える：資本主義vs.気候変動 / ナオミ・クライン [著]；幾島幸子，荒井雅子訳 岩波書店，2017.8 519-KL4k-1 朝日17.10.15 地球温暖化・気候変動という人類最大の危機。元凶は単にCO2ではなく、資本主義そのものである。私たちに残されたのは不可能を成し遂げるためのぎりぎりの時間。でも、今なら間に合う。そしてそれは、すべてを変えるチャンスになる。前作『ショック・ドクトリン』で世界を驚愕させたジャーナリストによる、地球と人類の未来を考える上で必読の書。
宇宙	宇宙はどこまで行けるか：ロケットエンジンの実力と未来 / 小泉宏之著 中央公論新社，2018.9 C-538.9-Ko38u 【中公新書2507】 読売18.11.4 月や小惑星で資源を採掘する。火星に有人探査機を送る。木星や土星の衛星で生命の痕跡を探す。ベンチャー企業が勃興し、宇宙が新たなビジネスの主戦場になりつつある今、こうした計画は現実のものになろうとしている。
	ファストファッション：クローゼットの中の憂鬱 / エリザベス・L・クライン著；鈴木素子訳 春秋社，2014.5 589.2-C78f 日経14.6.15朝日7.20 格安ファッションのスピード生産・大量流通の裏には何があるのか。驚くべき消費社会のいびつな実態。
被服	無銭経済宣言：お金を使わずに生きる方法 / マーク・ボイル著；吉田奈緒子訳 紀伊國屋書店，2017.9 591-B69m 紀伊國屋書店scripta17.秋 自然界や地域社会とのつながり、持続可能な地球をとりもどすための新しい経済モデルを提起する。
農業経済	領土消失：規制なき外国人の土地買収 / 宮本雅史，平野秀樹 [著] KADOKAWA，2018.12 【角川新書】 611.23-Mi77r 朝日19.2.2 世界の国々は、国境沿いや安全保障上の要衝は購入できないなど、外国資本の土地買収に一定の規制を設けている。一方で、日本は世界でも稀有な“オールフリー”な国だ。現状の危うさをうったえる。
	大英帝国は大食らい：イギリスとその帝国による植民地経営は、いかにして世界各地の食事をつくりあげたか / リジー・コリンガム著；松本裕訳 河出書房新社，2019.3 611.31-C84d 毎日19.5.12日経5.18朝日6.8 パックス・ブリタニカを築いたイギリス帝国、そのグローバルな活動の全貌を《料理》から読み解く。帝国の複雑に入り組んだ相互依存の仕組みと、近代世界の食習慣をかたちづくるうえで帝国が果たした役割を明らかにする。
遺伝子組み換え	土地球最後のナゾ：100億人を養う土壌を求めて / 藤井一至著 光文社，2018.8 【光文社新書】 613.5-F57t 読売18.11.4 世界の土はたった12種類。しかし、毎日の食卓を支え、地球の未来を支えてくれる本当に「肥沃な土」はどこに?そもそも土とは一体何なのか?泥にまみれて地球を巡った研究者の汗と涙がにじむ、一綴りの宝の地図。
	トラクターの世界史：人類の歴史を変えた「鉄の馬」たち / 藤原辰史著 中央公論新社，2017.9 C-614.89-F56t (中公新書2451) 日経17.10.28東京10.29朝日11.5読売11.26 1892年にアメリカで発明されたトラクターは、直接土を耕す苦役から人類を解放し、穀物の大量生産を可能にした。だが、化学肥料の使用、土地の圧縮、多額のローンなど新たな問題を生み出す。一つの農業用機械が、人類に何をもたらしたのか描く。
珈琲	遺伝子組み換えのねじ曲げられた真実：私たちはどのように騙されてきたのか? / スティーブン・M. ドルーカー著；守信人訳 日経BP社，日経BPマーケティング (発売)，2016.6 615.21-D92i HONZ16.6.21 著名な生物学者や学術団体が、遺伝子組み換え食品を世に出すためリスクを隠蔽し、真実をゆがめてきた。この手の込んだ詐欺がどのように行われ、一般国民だけでなく、影響力の大きい人物までが騙されたのかを克明に描く。
	モンサント：世界の農業を支配する遺伝子組み換え企業 / マリー=モニク・ロバン著；村澤真保，上尾真道訳 作品社，2015.1 615.21-R53m 日経15.3.22赤旗・毎日4.26 PCBや枯葉剤の公害を起し、遺伝子組み換え種子で農業支配を進める世界企業の実態とは。
	珈琲(コーヒー)の世界史 / 且部幸博著 講談社，2017.10 【講談社現代新書2445】 619.89-Ta85c 毎日18.9.9 先史時代から現在に至るまで、コーヒーが辿った歴史を、起源に関する最新仮説なども交え、わかりやすく解説した文明史。

小売業	ユニクロ帝国の光と影 / 横田増生著 文芸春秋, 2011.3 673.7-Y78u 朝日11.5.1 ユニクロの真の姿に迫る。執行役員が次々辞めるのはなぜなのか? なぜ、正社員が1割しかいないのか? なぜ、中国の協力工場について秘密にするのか? 柳井正の父親による桎梏とは何なのか? 誕生の地・宇部から、ユニクロ躍進の秘密を握る中国へ、そしてライバルZARAの心臓部スペインへ。グローバルな取材であぶりだす本当の柳井正とユニクロ。	
	ユニクロ潜入一年 / 横田増生著 文芸春秋, 2017.10 673.7-Y78ub 朝日17.11.5 ワンマン経営に疲弊する現場を克明に描く潜入ルポルタージュの傑作。サービス残業、人手不足、パワハラ、無理なシフト、出勤調整で人件費抑制…。「(批判する人は)うちの会社で働いてもらって、どういう企業なのかをぜひ体験してもらいたい」。そんな柳井正社長の言葉に応じ、ジャーナリストはユニクロの店舗への潜入取材を決意した。	
	広告で社会学 / 難波功士著 弘文堂, 2018.1 674.01-N48kb 週刊新潮18.3.8 広告は、社会の窓だ。生命保険のCMがリスク社会を、食品会社のポスターが家族のいまを教えてくれる。テレビ、新聞、Webに掲載された約80点の広告とキャッチコピーを窓口に、日本のいまを社会学で解析する一冊。	
	物流危機は終わらない：暮らしを支える労働のゆくえ / 首藤若菜著 岩波書店, 2018.12 S-685.9-Sh99b 【岩波新書1753】	
	日経19.3.2 ネットで注文した商品が、送料無料で翌日に配達される。安く早くモノが届くことは、もはや当たり前の日常だ。しかし、その荷物を運ぶドライバーは、見えないところで過酷な労働を強いられている。私たちの暮らしや経済を支える物流。それを維持するためのコストは、いったい誰が負担すべきなのか。問題提起の書。	
	ジェット・セックス：スチュワーデスの歴史とアメリカ的「女性らしさ」の形成 / ヴィクトリア・ヴァントック 著；浜本隆三、藤原崇訳 明石書店, 2018.11 687.3-V36j 読売19.1.27 「スチュワーデス」という仕事の誕生から、ジェット族と呼ばれるセレブリティの出現、そして、男性を誘惑する女性たちというネガティブなイメージが生まれるまでの花形の職業の発展史を膨大な一次資料と当事者への聞き取りをもとに描き出す。「スチュワーデス」の歴史は、大戦後の女性表象をめぐる渦巻くジェンダー、セクシュアリティ、冷戦期のプロパガンダ、人種問題、科学技術、美的概念を紐解くことに結実する。	
	外国人が見た日本：「誤解」と「再発見」の観光150年史 / 内田宗治著 中央公論新社, 2018.10 (中公新書2511) C-688.21-U14g 日経18.12.8 外国人は何を見たいのか。日本人は何を見せたいのか。国策としてのガイドブック作成、ホテル建設など、観光客誘致に邁進する。しかしそこには常に「見たいもの」と「見せたいもの」のギャップが存在していた。観光客誘致でたどる近代史。	
	デジタル・ポピュリズム：操作される世論と民主主義 / 福田直子著 集英社, 2018.5 【集英社新書】 695-F742d 毎日18.6.17朝日7.7 嘘を混ぜたプロパガンダや個人の不安に直接訴える「マイクロ宣伝」。デジタル時代の民主主義を考える。	
	ネットリンチで人生を壊された人たち：ルポ / ジョン・ロンソン著；夏目大訳 光文社, 2017.2 695-R66n (光文社新書) 読売17.3.26 日経4.15 自らの行動やコメントが原因で大炎上し、社会的地位や職を失った人たちを徹底取材したルポ。	
	情報化社会	ジャポニスム：流行としての「日本」 / 宮崎克己著 講談社, 2018.12 (講談社現代新書2506) 702.06-Mi88j 東京19.2.24 西洋の美意識を変えた19世紀の日本ブーム。マネ、モネ、ゴッホ、ゴッガン、ドガ、セザンヌ…。印象派の巨匠たちは、こぞって日本美術を研究し、自身の絵画に取り入れた。
レオナルド・ダ・ヴィンチ / ウォルター・アイザックソン著；土方奈美訳 文芸春秋, 2019.3 702.37-L55Yid-1 702.37-L55Yid-2 朝日19.5.18日経6.1 「芸術」と「科学」を結び「創造性」を生み出した。科学者であり、軍事顧問であり、舞台演出家だった。光学、幾何学、解剖学などの、点と点を結ぶ芸術家であり人類史上はじめて現れたイノベーターだった。同性愛者であり、美少年の巻き毛の虜となった。遺された七二〇〇枚のダ・ヴィンチ全自筆ノートを基にその生涯と天才性を描き切った決定版。		
ウンベルト・エーコの世界文明講義 / ウンベルト・エーコ著；石田聖子 [ほか] 訳 河出書房新社, 2018.11 704-E19u 毎日19.1.6日経1.19 現代人は古代・中世・近代より進歩しているのか。見えないもの、聖なるもの、美と醜、絶対と相対、パラドックス、嘘、秘密、陰謀…。太古からつづく普遍的課題をやさしく解き明かした、知の巨人による最後の贈り物。絵画、音楽、文学、映画、漫画など、カラー図版120点以上。		
ゴッホの耳：天才画家最大の謎 / バーナデット・マーフィー著；山田美明訳 早川書房, 2017.9 723.359-G57Ymd 日経17.10.21東京10.29朝日11.19 1888年12月、南フランスのアルル。ゴッホ(1853-90)は自らの片耳を切り落とす。彼はなぜこんな衝撃的な事件を引き起こしたのか。新発見資料を通して、美術館だけでは知り得ないゴッホが生きた世界が浮かび上がる。娼館の女将や娼婦、カフェのパトロンや警察、彼が愛した弟のテオ、芸術家たち、そして同居したゴッガン。耳を贈られた謎の女性「ラジェール」とは何者なのか?		
ファン・ゴッホの生涯 / スティーヴン・ネイフ、グレゴリー・ホワイト・スミス著；松田和也訳 国書刊行会, 2016.10 723.359-G57Ynd-1 723.359-G57Ynd-2 週刊読書人17.1.27 あまたの伝説にいろどられた画家フィンセント・ファン・ゴッホの波瀾に満ちた生涯を、圧倒的な精密さと感動的な筆致で巨細にわたり描き出した、ピューリッツァー賞受賞コンビによるゴッホ伝の記念碑的決定版。図版約200点収録。		
ピカソとの日々 / フランソワーズ・ジロー、カールトン・レイク著；野中邦子訳 白水社, 2019.4 723.36-P59Yg.n 東京19.6.9 1943年、戦時下のパリ。40歳年上の巨匠との出会い、間近で見た創作の秘密、芸術観、交友関係、そして恋愛…。ともに生きた10年間を克明に記録しながら、ひとりの女性としての自らの成長を綴った比類なきメモワール、半世紀ぶりの新訳。		
芸術		
美術		
絵画		

	この世界の片隅に / こうの史代著 双葉社, 2008.2-2009.4 726.1-Ko76k-1,2,3 読売17.1.8 すずは広島市から呉へ嫁ぎ、新しい家族、新しい街、新しい世界に戸惑う。一日一日を確かに健気に生きていく…。
	非暴力の闘い / ジョン・ルイス, アンドリュー・アイデン作; ネイト・パウエル画; 押野素子訳 岩波書店, 2018.3 726.1-Ma51-1 朝日18.7.14 バラク・オバマの大統領就任式の日、かつての公民権運動の闘士、ジョン・ルイス下院議員は、これまでの道のりを振り返っていた。南部の農場で生まれ育った少年が、いかにして差別に対抗する非暴力の手法を学び、運動に身を投じるようになったのか。公民権運動の歴史を当事者の目線で描く、骨太のグラフィック・ノベル第一弾。
	ワシントン大行進 / ジョン・ルイス, アンドリュー・アイデン作; ネイト・パウエル画; 押野素子訳 岩波書店, 2018.4 726.1-Ma51-2 朝日18.7.14 南部にむかうバスに乗って、人種の区別を公然と破るフリーダム・ライド運動に参加したジョン・ルイス。南部の白人社会の反発はすさまじいものだったが、果敢な行動で社会を揺り動かしていく。そしてワシントン大行進で運動は頂点に達したかにみえたが…。
	セルマ：勝利をわれらに / ジョン・ルイス, アンドリュー・アイデン作; ネイト・パウエル画; 押野素子訳 岩波書店, 2018.5 726.1-Ma51-3 朝日18.7.14 一九六四年の公民権法の成立後も、アラバマ州セルマでは選挙権登録に来た黒人市民を保安官が妨害していた。ジョン・ルイスは抗議のデモに参加するが、警官隊は催涙弾を打ち込み、デモ隊を棍棒で殴り倒す。「血の日曜日」事件は全米に放送され、世論や議会に大きな影響を与え、六五年の投票権法の成立を導く。
	マッドジャーマンズ：ドイツ移民物語 / ビルギット・ヴァイエ著; 山口侑紀訳 花伝社, 共栄書房(発売), 2017.10 726.1-W64m 毎日18.4.22 移民問題に揺れる欧州。ドイツに衝撃を与えた社会派コミック。アフリカからやってきた若者たちは、欧州で何を見、何を感じたのか? 3人のストーリーが描く、移民問題の本質。
漫画	ショスタコーヴィチ：引き裂かれた栄光 / 亀山郁夫著 岩波書店, 2018.3 762.38-Sh96Yk 読売18.6.3 ロシア革命、大テロ、世界大戦、スターリン独裁など激動の連年に生きた芸術家は、悲劇をどう生きのびたのか。
	ショスタコーヴィチとスターリン / ソロモン・ヴォルコフ著; 亀山郁夫 [ほか] 訳 慶應義塾大学出版会, 2018.4 762.38-Sh96Yv 週刊読書人18.5.26 独裁者スターリンにたいし抵抗とも服従ともいいがたい両義的な態度をとったショスタコーヴィチを描く。
	冷戦とクラシック：音楽家たちの知られざる闘い / 中川右介著 NHK出版, 2017.7【NHK出版新書】 762.8-N32r 毎日17.9.24 音楽にも国境があった東西冷戦時代を生きたムラヴィンスキー、バーンスタインを軸にした、音楽と政治の駆け引きと確執。
	ザ・ビートルズ解散の真実 / ピーター・ドゲット著; 奥田祐士訳 イースト・プレス, 2014.12 764.7-B31Yd 日経15.1.25 誰が最初に脱退を口にしたのか。メンバーを告訴したポール、アップルの崩壊など、“ビートルズの闇”を描く。
	ビートルズ原論：ロックンロールからロックへ / 根木正孝著 水曜社, 2017.1 764.7-B31Yne 図書新聞17.5.13 ビートルズ誕生はロック文化の分岐点だった。ビートルズ現象は社会情勢の変革が大きな役割を果たした。
	ポール・マッカートニー：告白 / ポール・デュ・ノイヤー著; 奥田祐士訳 ディスクユニオン(発売), 2016.6 764.7-Ma13Yd 朝日16.7.31 ポールと35年以上にわたって親交を深めてきた著者が、対話の記録を一冊に集約。自伝的インタビュー集。
	K-POP：新感覚のメディア / 金成攻著 岩波書店, 2018.7【岩波新書1730】 S-767.8-Ki38k 東京18.10.14 BTS、TWICE、EXO……日韓関係の悪化とともに韓流ブームは去ったと思っていたら、いつのまにか若者たちはK-POPに夢中になっていた。その魅力と秘密はどこにあるのか。グローバルなトレンドとポップな欲望が交錯するソーシャル・メディア時代の音楽空間をメディア論の視点から考える。
音楽	チャップリンとヒトラー：メディアとイメージの世界大戦 / 大野裕之著 岩波書店, 2015.6 778.253-O67c 日経15.10.25 二人の才能、それぞれが背負う歴史と思想は激突する。映画『独裁者』をめぐるメディア戦争の実相を描き出す。
	トランボ：ハリウッドに最も嫌われた男 / ブルース・クック著; 手嶋由美子訳 世界文化社, 2016.7 778.253-Tr8Yc 毎日16.7.25 1940年代の米国、赤狩りの時代。ハリウッドで仕事を奪われ、偽名で仕事をし、オスカーを受賞した脚本家の生涯。
	水曜日のアニメが待ち遠しい：フランス人から見た日本サブカルチャーの魅力を解き明かす / トリスタン・ブルネ著 誠文堂新光社, 2015.8 778.77-B78s 朝日15.10.25 1970年代末、フランスの子どもたちはみんな日本アニメに夢中になった。激しいバッシングや誤解を巻き起こしながらもアニメやマンガはやがて彼らの人生や世界観に大きな影響を与えるまでになった。日本のサブカルチャーはなぜフランスの若者をこれほど熱狂させることになったのか。自身の経験を踏まえてフランス人オタク第一世代の著者が解き明かす。
	天才の思考：高畑勲と宮崎駿 / 鈴木敏夫著 文藝春秋, 2019.5【文春新書1216】 778.77-Su96t BOOKウォッチ19.5.31 ジブリの名作はこうして作られた。『風の谷のナウシカ』から『となりの山田くん』、『風立ちぬ』まで。二人の天才を最も間近で支え続けたプロデューサーがついに語ったジブリ19作品の内幕。誰よりも互いを認め合った二人の生々しい激闘、強烈過ぎる個性、創作の秘密が惜しみなく明かされる。
映画	



大衆演芸	表参道のセブ犬とカバーニャ要塞の野良犬 / 若林正恭著 KADOKAWA, 2017.7 779.14-W17o 読売17.8.6 オードリー若林、「別のシステムで生きる人々を見てみたい」と、猛然と樂園キューバへ旅立った。慣れない葉巻をくわえ、芸人としてカストロの演説に想いを馳せる。そして最後はホロリと泣ける、旅の真相が明らかに…。
	トレバー・ノア：生まれたことが犯罪!? / トレバー・ノア著；齋藤慎子訳 英治出版, 2018.5 779.9-N91Yn 朝日18.6.16 NEW YORK TIMES2017ベストブック アメリカで人気風刺ニュース番組「ザ・デイリー・ショー」の司会をつとめる、注目のコメディアン、トレバー・ノア。特にトランプ大統領就任以降、「分断」の騒がれるアメリカでユーモアによって新しい風を吹き込む存在として、注目を集めている。アパルトヘイト下の南アフリカで、彼の人生は「黒人の母と白人の父から生まれた」という犯罪行為からはじまった。政府の目をかいくぐって暮らした幼少期、生き抜くために上達したモノマネ、悪友たちとの闇商売、モテなかった学生時代の淡い恋……不条理な状況をユーモアで乗り越えていく母と子の生き様を描いた物語。
スポーツ	スポーツ国家アメリカ：民主主義と巨大ビジネスのはざままで / 鈴木透著 中央公論新社, 2018.3 C-780.253-Su96s 【中公新書2479】 読売18.4.15 日経4.28 自由と平等の理念を持つ、移民の国。人種や性、地域社会の問題にアスリートはどう向き合ってきたか。
	死に山：世界一不気味な遭難事故「ディアトロフ峠事件」の真相 / ドニー・アイカー著；安原和見 786.1-E37s 訳 河出書房新社, 2018.8 読売18.9.23朝日10.27 1959年、冷戦下のソ連・ウラル山脈で起きた遭難事故。登山チーム九名はテントから一キロ半ほど離れた場所で、この世のものとは思えない凄惨な死に様で発見された。隕石かソ連か宇宙人か？世界一不気味な遭難事故《ディアトロフ峠事件》の全貌と真相を描く衝撃のノンフィクション。
言語	我々ほどのような生き物なのか：ソフィア・レクチャーズ / ノーム・チョムスキー [著]；福井直樹, 辻子美保子編訳 岩波書店, 2015.9 801-C53w 読売15.11.15 言語学者と政治活動家。チョムスキーの二つの側面が、来日時連続講演とインタビューを通して像を結ぶ。
	チョムスキー言語の科学：ことば・心・人間本性 / チョムスキー [述]；J・マツギルヴレイ聞き手；成田広樹訳 岩波書店, 2016.5 801.02-C53Yc 毎日16.6.12 言語とは何か。なぜ人間はことばを持つのか。言語はどのようにして獲得されるか。ことばで何を問い何を語るのか。
	チョムスキーと言語脳科学 / 酒井邦嘉著 集英社インターナショナル, 集英社 (発売), 2019.4 801.5-C53Ys 【インターナショナル新書】 毎日19.7.14 脳科学が人類最大の謎に挑む一。すべての自然言語には共通の基盤があり、言語機能は生得的だとする「生成文法理論」は正しいのか。言語研究の「革命」を告げるチョムスキー著『統辞構造論』を詳しく解説し、生成文法理論の核心となる“文法中枢”が脳内に存在することを、言語脳科学の実証実験によって明らかにする。
漢字	漢字の字形：甲骨文字から篆書、楷書へ / 落合淳思著 中央公論新社, 2019.3 【中公新書2534】 C-821.2-O15kd 読売19.5.19 馬という字からはタテガミをなびかせ走るウマの姿が見えてくる。しかし犬からイヌを、象からゾウの姿を想像することは難しい。漢字がもつ四千年の歴史は、捨象と洗練と普及の歴史である。本書ではそうした漢字の変遷が一目でわかる字形表を用いることで、祭祀や農耕など中国社会の変化の軌跡をたどる。
日本文学	三島由紀夫と天皇 / 菅孝行著 平凡社, 2018.11 (平凡社新書896) 910.268-Mi53kj 毎日19.1.27 三島の死には、戦時期から戦後に至る昭和天皇の言動への諫死の意味が込められていた。その死を通して戦後体制の欺瞞の構造を抉る。天皇制と民主主義、対米従属と国粹主義。戦後日本の矛盾を見抜いた三島の先駆性とは。
	東京プリズン / 赤坂真理著 河出書房新社, 2012.7 913.6-A321t 朝日12.7.15 戦争を忘れても、戦後は終わらない。16歳のマリが挑む現代の「東京裁判」を通して、「戦争」と「戦後」を、すべての日本人の問題として描いた長編小説。
	おもかげ / 浅田次郎著 毎日新聞出版, 2017.12 913.6-A813oc 毎日18.1.7 商社マンとして定年を迎えた竹脇正一は、送別会の帰りに地下鉄の車内で倒れ、集中治療室に運びこまれた。定年の日に倒れた男の〈幸福〉とは。心揺さぶる、愛と真実の物語。
	ままならないから私とあなた / 朝井リョウ著 文芸春秋, 2016.4 913.6-A831m 毎日16.5.22 正しいと思われることは、本当に正しいのか。読者の価値観を心地よく揺さぶる表題と「レンタル世界」の二篇。
	何様 / 朝井リョウ著 新潮社, 2016.8 913.6-A831nb 朝日16.10.23 ただの前日譚、後日談におさまらない、『何者』以後の発見と考察に満ちた読み応えのある最新作品集。
	たゆたえども沈まず / 原田マハ著 幻冬舎, 2017.10 913.6-H322tb 日経17.12.23 天才画家ゴッホと、商才溢れる日本人画商・林忠正。二人の出会いが、〈世界を変える一枚〉を生んだ…。
	草薙の剣 / 橋本治著 新潮社, 2018.3 913.6-H386kb 朝日18.4.15日経5.12毎日11.18第71回野間文芸賞受賞。なんで僕はこんなところにいるんだろう？日本人の心の百年を辿る壮大な長篇小説。62歳から12歳まで、10歳ずつ年の違う6人の男たちを主人公に、その父母や祖父母まで遡るそれぞれの人生を描いて、敗戦、高度経済成長、オイルショック、昭和の終焉、バブル崩壊、二つの大震災を生きた日本人の軌跡を辿る。
	彼女は頭が悪いから / 姫野カオルコ著 文芸春秋, 2018.7 913.6-H59kb 東京18.11.18 私は東大生の将来をダメにした勘違い女なの？深夜のマンションで起こった東大生5人による強制わいせつ事件。非難されたのはなぜか被害者の女子大生だった。現実起こった事件に着想を得た衝撃の書き下ろし。
	ある男 / 平野啓一郎著 文芸春秋, 2018.9 913.6-H661a 毎日18.11.4朝日12.4東京12.23 第70回読売文学賞受賞作。愛したはずの夫は、別人であった。人はなぜ人を愛するのか。幼少期に深い傷を負っても、人は愛にたどりつけるのか。「大祐」の人生を探るうちに、過去を変えて生きる男たちの姿が…。人間存在の根源と、世界の真実に触れる文学作品。

マチネの終わりに / 平野啓一郎著 毎日新聞出版, 2016.4 読売16.7.10 天才ギタリストの蒔野(38)と通信社記者の洋子(40)。深く愛し合いながらも、一緒になることが許されない二人…。	913.6-H661m
焔 / 星野智幸著 新潮社, 2018.1 読売18.3.25 第54回(2018年)谷崎潤一郎賞受賞作。真夏の炎天下の公園で、涙が止まらない人で溢れかえる世界で、人間がお金となり自らを売買する社会で。自分ではない何かになりたいと切望する人々が、自らの物語を語り始めたとき。	913.6-H922h
呪文 / 星野智幸著 河出書房新社, 2015.9 毎日15.9.13 寂れゆく松保商店街に現れた若きリーダー凶領。クレーマーの撃退を手始めに、商店街の大改革に着手して…。	913.6-H922j
あひる / 今村夏子著 書肆侃侃房, 2016.11 読売16.12.25東京17.1.29日経7.1 あひるを飼うことになった家族と集まってくる子供たち。一瞬、幸せな日常の危うさを描く。	913.6-I44a
星の子 / 今村夏子著 朝日新聞出版, 2017.6 野間文芸新人賞 病弱なちひろを救いたい一心で、両親は怪しい宗教にのめり込んでいき、信仰が家族を崩壊させていく。	913.6-I44h
小説禁止令に賛同する / いとうせいこう著 集英社, 2018.2 東京18.3.25 二〇三六年の近未来。言論弾圧を受けて投獄された75歳の作家「わたし」が獄中で書いた随筆は、政府が発表した「小説禁止令」を礼讃する内容になるはずだった。しかし、当局がそこに見つけたのは、あるはずのない作品名だった…。	913.6-I8971sc
我々の恋愛 / いとうせいこう著 講談社, 2016.3 朝日16.4.24 2001年、山梨で『二十世紀の恋愛を振り返る十五カ国会議』が開催され、世界中の恋愛学者が集まった…。	913.6-I8971w
天地に燦(さん)たり / 川越宗一著 文藝春秋, 2018.7 朝日18.8.18 第25回松本清張賞受賞。豊臣秀吉の朝鮮出兵により侵略の風が吹き荒れる東アジアを、三つの視点から克明に続く。なぜ人は争うことを辞められないのか。人と獣を分かちつものとは、一体なんなのか。	913.6-Ka923t
森へ行きましょう / 川上弘美著 日本経済新聞出版社, 2017.10 読売17.11.12朝日11.19毎日12.3 主人公は1966年ひのえうまの同じ日に生まれた留津とルツ。パラレルワールドに生きるふたりの女性は、いたかもしれないもうひとりの「自分」。留津とルツの恋人や夫も読者のあなたのもうひとりの「自分」かもしれません。	913.6-Ka943mc
バラカ / 桐野夏生著 集英社, 2016.2 日経16.3.6朝日毎日3.27 震災で原発4基が爆発した。警戒区域で発見された少女「バラカ」。彼女が世界を変えていく…。	913.6-Ki546b
夜の谷を行く / 桐野夏生著 文藝春秋, 2017.3 朝日17.5.14 連合赤軍がひき起こした「あさま山荘」事件から四十年余。その直前、山岳地帯で行なわれた「総括」と称する内部メンバー同士での批判により、12名がリンチで死亡した。西田啓子は「総括」から逃げ出してきた一人だった…。	913.6-Ki546yd
万引き家族 / 是枝裕和著 宝島社, 2018.6 朝日18.6.23 第71回カンヌ国際映画祭コンペティション部門にてパルムドール賞を受賞した『万引き家族』を是枝裕和監督自ら小説化。「犯罪」でしかつなげられなかった。万引き・年金不正受給・虐待…。映画ではかなり尽くせなかった「家族」の在り方。	913.6-Ko791m
1R1分34秒 / 町屋良平著 新潮社, 2019.1 2018年度下半期(第160回)芥川賞 デビュー戦を初回KOで飾ってから三敗一分。考えすぎてばかりいる、21歳プロボクサーのぼくは自分の弱さに、その人生に厭きていた。長年のトレーナーにも見捨てられ、現役ボクサーで駆け出しトレーナーの変わり者、ウメキチとの練習の日々が、ぼくを、その心身を、世界を変えていく。	913.6-Ma19i
チェーン・ピープル / 三崎亜記著 幻冬舎, 2017.4 読売17.6.25 名前も年齢も住所もまったく違うのに、言動や身ごなし、癖に奇妙な共通点がある。彼らは「チェーン・ピープル」と呼ばれ、定められた人格「平田昌三マニュアル」に則り、日々、平田昌三的であることを目指し、自らを律しながら暮らしている。	913.6-Mi512c
あとは野となれ大和撫子 / 宮内悠介著 KADOKAWA, 2017.4 東京17.7.9 アラルスタン国で、大統領が暗殺された。残ったのは若き後宮の女子のみ。ナツキたちは臨時政府を立ち上げ…。	913.6-Mi861a
みかづき / 森絵都著 集英社, 2016.9 日経16.10.16読売12.25 日本における学習塾の変遷、その塾の経営者三代の奮闘、女系家族の確執、理想の教育を描く。	913.6-Mo454m
がっかり行進曲 / 中島たい子著 筑摩書房, 2017.1 【ちくまプリマー新書】 東京17.4.30 勉強も運動も不得意。学校にも馴染めない。私にも未来はある? 大人になるのが怖い全ての人に向けた青春小説。	913.6-N341g
教団X / 中村文則著 集英社, 2014.12 日経15.2.1朝日3.1 悪の教祖と4人の男女の運命が絡まる。教団は暴走し、この国を根幹から揺さぶり始める。神とは何か。	913.6-N379kb
私の消滅 / 中村文則著 文藝春秋, 2016.6 東京17.7.24朝日7.31 一行目に不気味な文章が書かれた、ある人物の手記。それを読む男を待ち受けるのは、狂気か救済か。	913.6-N379w
水曜日の凱歌 / 乃南アサ著 新潮社, 2015.7 日経15.9.20 敗戦国日本は、進駐軍兵士からの性の防波堤として、女たちを差し出した。戦後裏面史に残る彼女たちの戦い。	913.6-N951s
ゲームの王国 / 小川哲著 早川書房, 2017.8 東京18.1.21 軍靴と砲声に震える1974年のカンボジア、バタンバンで出会った少女ソリヤと少年ムイタック。秘密警察、恐怖政治、テロ、強制労働、虐殺。百万人以上の生命を奪った不条理は、少女と少年を見つめながらゲームのように進行する…。	913.6-O243g-1,2
真ん中の子どもたち / 温又柔著 集英社, 2017.7 朝日17.9.17 日本、台湾、中国、複数の国の間で、自らのことばを模索する若者たちの姿を鮮やかに描き出す青春小説。	913.6-O651m

日本文学

スウィングしなけりや意味がない / 佐藤亜紀著 KADOKAWA, 2017.3	913.6-Sa8511s
朝日17.4.16毎日4.30 1940年代、ナチス政権下のドイツ。悪ガキどもが、夢中になったのは敵性音楽のジャズだった。政治に無関心でユダヤ人もナチス党员も一緒にジャズに興じ、苦境の中でも格好良く生きた若者たち。戦争の狂気と人間の本質を描く。	
明るい夜に出かけて / 佐藤多佳子著 新潮社, 2016.9	913.6-Sa8515a
読売16.10.30 「歴史を変えた」と言われる伝説のラジオ番組が小説内でオンエア。若さと生きることのすべてが詰まった長篇。	
そして、バトンは渡された / 瀬尾まいこ著 文藝春秋, 2018.2	913.6-Se76s
朝日19.5.18 森宮優子、十七歳。継父継母が変われば名字も変わる。だけどいつでも両親を愛し、愛されていた。「私には父親が三人、母親が二人いる。家族の形態は、十七年間で七回も変わった。でも、全然不幸ではないのだ」	
たんぼぼ団地 / 重松清著 新潮社, 2015.12	913.6-Sh284tc
朝日16.3.20 僕らの団地がなくなる前に、映画を撮ろう！少年ドラマ、ガリ版、初恋…。あの頃を信じる想いが奇跡を起こす。	
虚人の星 / 島田雅彦著 講談社, 2015.9	913.6-Sh36kc
毎日15.10.21 七つの人格をもつ二重スパイと、血筋だけが取り柄の三代目首相。二人が交差する時、日本の命運が決まる。	
宝島 / 真藤順丈著 講談社, 2018.6	913.6-Sh622t
朝日18.7.14 2018年下半期(第160回)直木賞受賞作。奪われた「故郷」を取り戻すため、少年少女は立ち上がる。米軍統治下の沖縄を嵐のように駆け抜ける、青春と革命の一大叙事詩。	
宰相A / 田中慎弥著 新潮社, 2015.2	913.6-Ta848s
朝日15.4.5 作家Tが母の墓参りの途中で迷い込んだのは、戦争こそ平和の基盤だと宰相Aが煽る「もう一つの日本」だった。	
美しい国への旅 / 田中慎弥著 集英社, 2017.1	913.6-Ta848u
週刊読書人17.2.10 汚染されたディストピア日本を舞台に、14歳の少年が、母の仇討ちと女兵士の使命を胸に、旅を続ける。	
田舎教師 / 田山花袋作 岩波書店, 2018.3 【岩波文庫】	B-913.6-Ta98i3
毎日18.4.29 文学を志しながら、家庭貧しく代用教員として人生を歩み始めた青年清三。田舎教師として埋没しゆく煩悶を描く。	
ニムロッド / 上田岳弘著 講談社, 2019.1	913.6-U326n
読売19.2.3日経2.16朝日3.16東京3.17 2018年度下半期芥川賞受賞。仮想通貨をネット空間で「採掘」する僕・中本哲史。中絶と離婚のトラウマを抱えた外資系証券会社勤務の恋人・田久保紀子。小説家への夢に挫折した同僚・ニムロッドこと荷室仁。やがて僕たちは、個であることをやめ、全能になって世界に溶ける。「すべては取り換え可能であった」という答えを残して。	
キジムナーkids / 上原正三著 現代書館, 2017.6	913.6-U361k
東京17.8.20朝日8.27 上原正三が少年の視点で描いたウチナーイクサ(沖縄戦)のリアル。集団自決、米兵による強姦、ひめゆり学徒隊、沖縄大空襲、疎開…。戦中戦後を生きた子供たちの飢えと遅さ、拒絶とあこがれ、そして絶望と希望を描く。	
国宝 / 吉田修一著 朝日新聞出版, 2018.9	913.6-Y861k-1, 2
日経18.10.6朝日10.27読売11.4毎日12.9 1964年元旦、長崎は老舗料亭「花丸」。侠客たちの怒号と悲鳴が飛び交うなかで、この国の宝となる役者は生まれた。男の名は、立花喜久雄。任侠の門に生まれながらも、この世ならざる美貌は人々を巻き込み、喜久雄の人生を思わぬ域にまで連れ出していく。舞台は長崎から大阪、そしてオリンピック後の東京へ。	
母の教え：10年後の『悩む力』 / 姜尚中著 集英社, 2018.10 (集英社新書0953C)	914.6-Ka43h
毎日18.10.21 東京近郊の高原へと移住した著者は、今までとは違った眼差しで世界や同時代を眺めるようになった。今は亡き、母、父、息子、叔父、先生、友だち。今なら言える。すべての愛すべき人たちの思い出こそが私の故郷であり、私の先生だったのだと。	
墮落論；日本文化私観：他二十二篇 / 坂口安吾著 岩波書店, 2008.9	B-914.6-Sa28d
朝日15.7.27日経19.5.13 1946(昭和21)年4月に発表された『墮落論』によって、坂口安吾(1906-1955)は一躍時代の寵児となった。「日本は負け、そして武士道は亡びたが、墮落という真実の母胎によって始めて人間が誕生したのだ」。生きよ、墮ちよ。墮ちること以外の中に人間を救う道はない、と説く。	
82年生まれ、キム・ジョン / チョ・ナムジュ著；斎藤真理子訳 筑摩書房, 2018.12	929.13-C524h
毎日19.1.6日経2.9東京2.17読売3.24 誕生から学生時代、受験、就職、結婚、育児…。キム・ジョン(韓国における82年生まれに最も多い名前)の人生を克明に振り返る中で、女性の人生に立ちあはだかる困難、差別が浮かびあがる。	
フィフティ・ピープル / チョン・セラン著；斎藤真理子訳 亜紀書房, 2018.10	929.13-C534f
週刊読書人18.11.23読売11.25北海道11.11 痛くて、おかしくて、悲しくて、愛しい。50人のドラマが、あやとりのように絡まり合う。韓国文学をリードする若手作家による、めくるめく連作短編小説集。	
星をかすめる風 / イ・ジョンミョン著；鴨良子訳 論創社, 2018.12	929.13-I117h
東京19.4.7 一編の詩が人を変え、ひとつの言葉が世界を変える！韓国の国民的詩人・尹東柱をめぐる愛と死の物語(フィクション)。	

韓国文学

<p><b>アメリカーナ / チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ著 ; くぼたのぞみ訳</b> 河出書房新社, 2016.10 933-A161ac          毎日16.12.18日経朝日17.1.8 アメリカに旅立った彼女を待っていたのは、階級、イデオロギー、人種で色分けされた社会だった。</p>
<p><b>オズの魔法使い / ライマン・フランク・ボウム著 ; 江國香織訳</b> 小学館, 2013.3 933-B280.e          朝日17.4.9 竜巻に巻き込まれたドロシー。辿りついたのは、いい魔女と悪い魔女、魔法使いオズが支配する見知らぬ国だった。</p>
<p><b>華氏451度 / レイ・ブラッドベリ著 ; 伊藤典夫訳</b> 早川書房, 2014.6 【ハヤカワ文庫】 933-B716kb          朝日16.4.10 華氏451度、この温度で書物の紙は引火し、そして燃える。451と刻印されたヘルメットをかぶり、昇火器の炎で隠匿されていた書物を焼き尽くす男たち。モンターグも自らの仕事に誇りを持つ、そうした昇火士(ファイアマン)のひとりだった。だがある晩、風変わりな少女とであってから、彼の人生は劇的に変わってゆく…。本が忌むべき禁制品となった未来を舞台に、SF界きつての抒情詩人が現代文明を鋭く風刺した不朽の名作。</p>
<p><b>ケイレブ : ハーバードのネイティブ・アメリカン / ジェラルディン・ブルックス著 ; 柴田ひさ子訳</b> 平凡社, 2018.12 933-B763c          朝日19.2.23 初期ハーバード大学にはネイティブ・アメリカンの学生がいた…。史実を基に白人キリスト教少女の目を通しアメリカ社会を描いた全米ベストセラー小説。</p>
<p><b>あたらしい名前 / ノヴァイオレット・ブラワヨ著 ; 谷崎由依訳</b> 早川書房, 2016.7 933-B881a          読売16.10.23 ジンバブエでの日々を経て、少女ダーリンはアメリカに移り住む。しかし、豊かで物があふれる国での暮らしは…。</p>
<p><b>冷血 / カポーティ [著] ; 佐々田雅子訳</b> 新潮社, 2006.7 【新潮文庫】 933-C16r.s          朝日19.2.16 カンザス州の片田舎で起きた一家4人惨殺事件。被害者は皆ロープで縛られ、至近距離から散弾銃で射殺されていた。あまりにも惨い犯行に、著者は5年余りの歳月を費やして綿密な取材を遂行。そして犯人2名が絞首刑に処せられるまでを見届けた。捜査の手法、犯罪者の心理、死刑制度の是非、そして取材者のモラル。物議をかもした、衝撃のノンフィクション・ノヴェル。</p>
<p><b>イエスの幼子時代 / J・M・クツツェー著 ; 鴻巣友季子訳</b> 早川書房, 2016.6 933-C833ic          朝日16.7.24日経8.14 過去を捨てた男は、移民船で少年と出会い、少年の母親を捜すことに。そして、断ち切れない絆を知る…。</p>
<p><b>ロビンソン・クルーソー / デフォー著 ; 唐戸信嘉訳</b> 光文社, 2018.8 【光文社古典新訳文庫】 933-D53r.k          毎日18.8.26 船に乗るたびに災難に見舞われるロビンソン。無人島漂着でさすがに悪運尽きたかと思えたが、住居建設、家畜の飼育、麦の栽培、パン焼きなど、試行錯誤しながらも限られた資源を活用して28年も暮らすことになる…創意工夫と不屈の精神で生き抜いた男の波瀾の人生を描いた傑作。</p>
<p><b>オスカー・ワオの短く凄まじい人生 / ジュノ・ディアス著 ; 都甲幸治, 久保尚美訳</b> 新潮社, 2011.2 933-D71o          【新潮クレスト・ブックス】          日経11.4.17朝日5.8読売18.7.8 〈ピューリツァー賞/全米批評家協会賞受賞〉 オスカーはファンタジー小説やロールプレイング・ゲームに夢中のオタク青年。心優しいロマンチストだが、女の子にはまったくモテない。不甲斐ない息子の行く末を心配した母親は彼を祖国ドミニカへ送り込み、彼は自分の一族が「フク」と呼ばれるカリブの呪いに囚われていることを知る。独裁者トルヒーヨの政権下で虐殺された祖父、禁じられた恋によって国を追われた母、母との確執から家をとびだした姉…。</p>
<p><b>すべての見えない光 / アンソニー・ドーア著 ; 藤井光訳</b> 新潮社, 2016.8 【新潮クレスト・ブックス】 933-D812sb          朝日16.10.9 ナチスの技術兵となった少年と盲目の少女の心をつなぐ。戦時下のフランス、サン・マロでの二人の短い邂逅。</p>
<p><b>アブサロム、アブサロム! / フォークナー作 ; 藤平育子訳</b> 岩波書店, 2011.10-2012.1 【岩波文庫】 B-933-F16a-1,2          朝日18.9.8 九月の午後、藤の咲き匂う古家で、老女が語り出す半世紀前の一族の悲劇。一八三三年ミシシッピに忽然と現れ、無一物から農場主にのし上がったサトペンとその一族はなぜ非業の死に滅びたのか?南部の男たちの血と南部の女たちの涙が綴る一大叙事詩。</p>
<p><b>八月の光 / フォークナー作 ; 諏訪部浩一訳</b> 岩波書店, 2016.10-2016.11 【岩波文庫】 B-933-F16hb-1, 2          毎日18.6.3 お腹の子の父親を追って旅する女、肌は白いが黒人の血を引いているという労働者、支離滅裂な言動から辞職を余儀なくされた牧師…。米国南部の町ジェファソンで、過去に呪われたように生きる人々の生は、一連の壮絶な事件へと収斂していく…。</p>
<p><b>ぼくを忘れないで / ネイサン・ファイラー著 ; 古草秀子訳</b> 東京創元社, 2019.5 933-F261b          東京19.7.14 統合失調症の青年が治療の一環として過去や現在を綴る手記の形を取った作品。子供時代に、大好きだった三つ年上のダウン症の兄サイモンが、事故で死亡。彼のせいで起きたといえる事故だったため、罪の意識から逃れられずに引きこもるうちに発病。彼にはいつも兄の声が聞こえ、兄の姿が見える。家族愛について、哀しみについて、微苦笑を誘う表現が読者の胸を打つ。コスタ賞新人賞・コスタ賞大賞受賞で話題を呼んだ、美しく感動的な傑作。</p>
<p><b>グレート・ギャツビー / フィッツジェラルド著 ; 小川高義訳</b> 光文社, 2009.9 【光文社古典新訳文庫】933-F29g.o          朝日18.10.20 絢爛豪華な邸宅に贅沢な車を持ち、夜ごと盛大なパーティを開く男、ギャツビーが富を築き上げてきたのは、かつての恋人を取り戻すためだった。だが、異常なまでの一途な愛は、やがて悲劇を招く。過去は取り返せる。そう信じて夢に砕けた男の物語。</p>
<p><b>美しく呪われた人たち / F・スコット・フィッツジェラルド著 ; 上岡伸雄訳</b> 作品社, 2019.4 933-F29u          毎日19.6.16東京7.7 デビュー作『楽園のこちら側』と永遠の名作『グレート・ギャツビー』の間に書かれた長編第二作。刹那的に生きる“失われた世代”の若者たちを絢爛たる文体で描き、栄光のさなかに自らの転落を予期したかのような傑作、本邦初訳。</p>
<p><b>ブックショップ = The bookshop / ペネロピ・フィッツジェラルド著 ; 山本やよい訳</b> ハーパーコリンズ・ジャパン, 2019.3 933-F291b          東京19.4.21 1959年英国。フローレンスには夢があった。それはこの海辺の町に本屋を開くこと。しかし時代はまだ事業を始めようとする女性に優しくなく、住人や町の権力者からは反対の声が。それでも本への情熱を胸に、フローレンスはついに“オールド・ハウス書店”を開店させる一。人と本との、心揺さぶる物語。</p>

ビリー・リンの永遠の一日 / ベン・ファウンテン著；上岡伸雄訳 新潮社，2017.1 【新潮クレスト・ブックス】 933-F422b
日経17.4.1 全米批評家協会賞受賞作。一時帰還した8人の兵士。彼らは戦意昂揚のための催しに駆り出され、巨大スタジアムで芸能人と並んでスポットライトを浴びる。テロと戦争の絶えない21世紀のアメリカの姿を、19歳の兵士の視点で描く。
嘘の木 / フランシス・ハーディング著；児玉敦子訳 東京創元社，2017.10 933-H324u
読売17.11.26 コスタ賞大賞・児童文学部門賞をダブル受賞したファンタジー。博物学者サンダリー師による世紀の発見、翼ある人類の化石。それが捏造だという噂が流れ、一家はヴェイン島へ移住する。だが噂は島まで追いかけてきた。そんななかサンダリー師が死亡するが、娘のフェイスは父の死因に疑問を抱く。謎めいた父の手記。嘘を養分に育ち、食べた者に真実を見せる実なる不思議な木。フェイスはその木を利用して、父の死の真相を暴く決心をする…。
緋文字 / ホーゾン著；小川高義訳 光文社，2013.2 【光文社古典新訳文庫】 933-H45h.o
朝日18.5.12 不倫の罪を背負い毅然と生きる女、罪悪感に苛まれ衰弱していく牧師、復讐心に燃え二人に執着する医師を描く。
武器よさらば / ヘミングウェイ著；金原瑞人訳 光文社，2007.8 【光文社古典新訳文庫】 933-H52b-1, 2
朝日18.9.22 第一次世界大戦の北イタリア戦線。負傷兵運搬の任務に志願したアメリカの青年フレデリック・ヘンリーは、看護婦のキャサリン・パークリと出会う。初めは遊びのつもりだったフレデリック。しかし負傷して送られた病院で彼女と再会、二人は次第に深く愛し合っていくのだった…。
すばらしい新世界 / オルダス・ハクスリー著；黒原敏行訳 光文社，2013.6 【光文社古典新訳文庫】 933-H98sb.k
毎日17.3.12 西暦2540年。人間の工場生産と条件付け教育、フリーセックスの奨励、快楽薬の配給によって、人類は不満と無縁の安定社会を築いていた。だが、時代の異端児たちと未開社会から来たジョンは、世界に疑問を抱き始め…。驚くべき洞察力で描かれた、ディストピア小説の決定版。
すばらしい新世界 / オルダス・ハクスリー著；大森望訳 早川書房，2017.1 【ハヤカワepi文庫86】 933-H98sb.o
毎日17.3.12 すべてを破壊した「九年戦争」の終結後に、暴力を排除し、共生・個性・安定をスローガンとする清潔で文明的な世界が形成された。人間は受精卵の段階から選別され、5つの階級に分けられて徹底的に管理・区別されていた。この美しい世界で孤独をかこっていた青年バーナードは、休暇で出かけた保護区で野人ジョンに出会う。ディストピア小説の不朽の名作。
ネバーホーム / レアード・ハント著；柴田元幸訳 朝日新聞出版，2017.12 933-H983n
日経18.1.20朝日1.28 南北戦争がはじまって、インディアナの農場で暮らしていたコンスタンスは夫のバーソロミューに代わって、北軍への入隊を決意する。名前をアッシュとかえて、男性の格好をして。女性にやさしい「伊達男アッシュ」とも呼ばれ、勇敢に戦い続ける。女であることがばれないかとおびえながら、野営地ですごし戦闘と行軍をくりかえす。従軍した彼女は何がこわかったのか？ 戦争は彼女をどのように変えたのか？ 故郷にもどった彼女を待ちうけていたものは？
日の名残り / カズオ・イシグロ著；土屋政雄訳 早川書房，2018.4 933-I73h-H
日経18.12.8 英国最高峰、ブッカー賞受賞作。品格ある執事の道を追求し続けてきたステューブンスは、短い旅に出た。美しい田園風景の道すがら様々な思い出がよぎる。長年仕えたダーリントン卿への敬慕、執事の鑑だった亡父、女中頭への淡い想い、二つの大戦の間に邸内で催された重要な外交会議の数々。過ぎ去りし思い出は、輝きを増して胸のなかで生き続ける。
忘れられた巨人 / カズオ・イシグロ著；土屋政雄訳 早川書房，2015.4 933-I73wb
毎日朝日読売15.5.31日経6.21 アクセルとベアトリスの老夫婦は、遠い地で暮らす息子に会うため、長年暮らした村を後にする。若い戦士、鬼に襲われた少年、老騎士…。さまざまな人々に出会いながら、雨が降る荒れ野を渡り、森を抜け、謎の霧に満ちた大地を旅するふたりを待つものとは…。
ボートの三人男：もちろん犬も / ジェローム・K・ジェローム著；小山太一訳 光文社，2018.4 933-J38b
【光文社古典新訳文庫】 北海道18.6.24 英国ユーモア小説の傑作。病気に罹っていると判断した僕は、休養と変化を求めて、友人ハリスとジョージ、そして犬のモンモランシーとともに、ボートに荷物を積み込み、テムズ河を遡上する旅に出る。トラブルとハプニングの連続で…。
人生の真実 / グレアム・ジョイス [著]；市田泉訳 東京創元社，2016.7 933-J852j
毎日16.8.28 世界幻想文学大賞受賞。この子はあしたたちが面倒を見る。よそにはやらないよ。生と死を見つめる家族の物語。
白鯨 / メルヴィル作；八木敏雄訳 岩波書店，2004.8-2004.12 【岩波文庫】 B-933-Me37h-1,2,3
朝日18.6.16 「モーヴィ・ディック」と呼ばれる巨大な白い鯨をめぐるって繰り返される、メルヴィル(1819-1891)の最高傑作。
グッバイ・クリストファー・ロビン：『クマのプーさん』の知られざる真実 / アン・スウェイト著；山内玲子、田中美保子訳 国書刊行会，2018.8 933-Mi28k.Yt
読売18.9.30東京10.28 今なお時代や国を超えて愛される『クマのプーさん』の物語。しかし、その誕生の背景には、ある家族の喜びと葛藤の日々があった。A・A・ミルンに不滅の名声をもたらしたのは4冊の子ども向けの詩集と読み物だった。しかし、物語の予想以上の成功は、劇作家としての名声を望むミルンにとっては不本意であり、家族の平和な日々を破壊し、物語のモデルとなったクリストファーを深い苦悩に追い込んだ。A・A・ミルンの伝記にして、人間の幸福の真実を映し出す名著。映画化作品。
ピアノ・レッスン / アリス・マンロー著；小竹由美子訳 新潮社，2018.11 【新潮クレスト・ブックス】 933-Mu351p
読売19.1.27 カナダの田舎町を舞台に、平凡な日常を送る人々の暮らしに光を当て、些細な出来事が彼らの運命を変えていく有様を追った十五篇。人生の陰翳を描き「現代のチャーホフ」と称されるノーベル賞作家の原風景に満ちたデビュー作品集。
アーダ / ウラジーミル・ナボコフ著；若島正訳 早川書房，2017.9 933-N11a-1, 2
朝日17.11.26毎日12.17 40年ぶりの新訳。遂にその全貌が明かされるナボコフの最大傑作。愛欲をめぐる、ある家族の物語。
ロリータ / ウラジーミル・ナボコフ [著]；若島正訳 新潮社，2005.11 933-N11L.w
朝日19.3.16 ヨーロッパの教養豊かに育ったハンバート・ハンバートは、幼い頃の最初の恋で心に傷を負っていた。理想のニンフェットを求めながらも、パリで結婚するが失敗。離婚を機にフランス語教師としてアメリカに渡った彼の下宿先には、一人の少女がいた。ロリータ。運命のいたずらから、ロリータと二人きりとなったハンバートは、彼女とともに車で全米を転々とすることに。

ミゲル・ストリート / V.S.ナイポール作；小沢自然, 小野正嗣訳 岩波書店, 2019.4 【岩波文庫】 B-933-N28m	朝日19.6.8 「名前のないモノ」ばかり作る大工、「世界でもっとも偉大な詩」を書いている詩人、父親が違う七人の子どもを生んだおっ母さん…。少年の眼を通して語られる、「ミゲル・ストリート」で生まれた十七の人生の物語は、みな風変わりで、そしてちょっと切ない。ノーベル賞作家ナイポールの実質上の処女作にして、必読の一作。
動物農場 / ジョージ・オーウェル著；山形浩生訳 早川書房, 2017.1 【ハヤカワepi文庫】 933-O71d.y	朝日17.2.19 飲んだくれの農場主ジョーンズを追い出した動物たちは、すべての動物は平等という理想を実現した「動物農場」を設立した。守るべき戒律を定め、動物主義の実践に励んだ。農場は共和国となり、知力に優れたブタが大統領に選ばれたが、指導者であるブタは手に入れた特権を徐々に拡大していき…。権力に対する批判を寓話形式で描いた風刺文学の名作。
一九八四年 / ジョージ・オーウェル著；高橋和久訳 早川書房, 2009.7 【ハヤカワepi文庫】 933-O71s.t	日経17.3.4 (ビッグ・ブラザー)率いる党が支配する全体主義的近未来。ウィンストン・スマスは真理省記録局に勤務する党員で、歴史の改竄が仕事だった。しかし彼は、以前より完璧な屈従を強いる体制に不満を抱いていた。ある時、奔放な美女ジュリアと出会ったことを契機に、伝説的な裏切り者が組織したと噂される反政府地下活動に惹かれるようになるが……。
プロット・アゲinst・アメリカ：もしもアメリカが… / フィリップ・ロス著；柴田元幸訳 集英社, 2014.8 933-R74p	毎日14.9.14日経10.5 もしも、第二次大戦時に元飛行士で反ユダヤ主義者のリンドバーグが米国大統領になっていたら…。
キャッチャー・イン・ザ・ライ / J.D.サリンジャー [著]；村上春樹訳 白水社, 2003.4 933-Sa53c	朝日18.12.15 村上春樹の新しい訳でお届けする新時代の『ライ麦畑でつかまえて』。インチキ野郎は大嫌い！おとなの儀礼的な処世術やまやかしに反発し、虚栄と悪の華に飾られた巨大な人工都市ニューヨークの街を、たったひとりでさまよいつづける16歳の少年の目に映じたものは何か？病める高度文明社会への辛辣な批判を秘めて若い世代の共感を呼ぶ永遠のベストセラー。
このサンドイッチ、マヨネーズ忘れてる；ハプワース16、1924年 / J.D.サリンジャー著；金原瑞人訳 新潮社, 2018.6 933-Sa53k	産経18.9.30 現代アメリカ文学の巨匠が遺した幻の作品群。目が眩むほどの生への焦燥と渴望——もうひとつの九つの物語。ああ、人生って、目を見開いてさえいれば、心躍る楽しいことに出会えるんだね——。『バナナフィッシュにうってつけの日』で自殺したグラス家の長兄シーモアが、七歳のときに家族あてに書いていた手紙『ハプワース』。『ライ麦畑でつかまえて』以前にホールデンを描いていた短編。長い沈黙の前に、サリンジャーが生への祈りを込めた九編。
ファミリー・ライフ / アキール・シャルマ著；小野正嗣訳 新潮社, 2018.1 【新潮クレスト・ブックス】 933-Sh132f	朝日18.3.4毎日3.11読売3.18日経3.24 インドからアメリカに渡り、ささやかな幸福を築いてきた移民一家の日常が、夏休みのプールの事故で暗転する。意識が戻らない兄、介護の毎日に疲弊する両親、そして悲しみの中で成長していく弟…。
フランケンシュタイン / シェリー著；小林章夫訳 光文社, 2010.10 933-Sh14f.k	朝日17.4.23 天才科学者フランケンシュタインは生命の秘密を探り当て、ついに人造人間を生み出すことに成功する。しかし…。
僕には世界がふたつある / ニール・シャスタマン著；金原瑞人, 西田佳子訳 集英社, 2017.7 933-Sh991b	日経17.9.2 2015年度全米図書賞児童文学部門受賞作品。妄想や幻覚にとらわれた15歳の少年は、学校で誰かに殺されそうな気配に日々おびえる一方、船長やオウムと一緒に、海賊船に乗る世界にも生きようになる。いつしか夢と現実混ざりはじめ…。精神疾患の予測不能な海を航行する、闘病と成長の物語。
『ガリヴァー旅行記』徹底注釈 岩波書店, 2013.8 933-Sw7gYh-1, 2	朝日18.12.22 強烈な諷刺と奇想天外な空想に満ちみちたスウィフト一代の傑作『ガリヴァー旅行記』。その魅力の源泉に迫るべく、史実考証はもとより、解釈をめぐる初版以来の知見や、テキスト分析、最新の学術的・批評的成果をふまえ、さらにオリジナルな論点や読みをもちこんだ空前の規模の注釈書がここに完成！研究者・文学ファン必携。
白墨人形 / C.J.チューダー著；中谷友紀子訳 文藝春秋, 2018.5 933-Tu3h	朝日18.6.23 光に満ちた少年の物語と、犯罪悲劇とが交錯する傑作サスペンス。あの日。僕たちが見つけた死体。そののはじまりは何だったのか。僕たちにもわからない。みんなで遊園地に出かけ、あの悲惨な事故を目撃したときか。白墨のように真っ白なハローラン先生が町にやってきたときか。それとも僕たちがチョークで描いた人形の絵で秘密のやりとりをはじめたときか…。白墨人形の絵とともに、あの事件が甦る。あの人が死んだことで、事件は解決したはずなのに…。
ハックルベリー・フィンの冒けん / マーク・トウェイン著；柴田元幸訳 研究社, 2017.12 933-Tw1h.s	朝日毎日18.2.18 「この小説の最大の魅力はハックの声の伸びやかさなので、それを活かす訳文を目指しました…」
地下鉄道 / コルソン・ホワイヘッド著；谷崎由依訳 早川書房, 2017.12 933-W681c	朝日18.1.28 ピュリッツァー賞、全米図書賞受賞。南部ジョージア州で奴隷少女コーラは、自由な北部を目指して農園から逃亡することを決める。暗い地下を走る鉄道、(地下鉄道)に乗って…。しかし彼女の後を、悪名高い奴隷狩り人リッジウェイが追っていた。
あなたを選んでくれるもの / ミランダ・ジュライ著；岸本佐知子訳 新潮社, 2015.8 934-J93a	朝日15.10.4 映画の脚本に行き詰まった著者は、フリーペーパーに売買広告を出す人々を訪ね、話を聞いてみることに…。
国のない男 / カート・ヴォネガット著；金原瑞人訳 中央公論新社, 2017.3 【中公文庫】 934-V89kb	朝日17.4.30読売6.4 人間への絶望と愛情、とびきりのユーモアと皮肉。戦後米国を代表する作家の現代社会批判、希望の書。
モリー先生との火曜日 / ミッチ・アルボム著；別宮貞徳訳 NHK出版, 2018.1 936-A411m-N	毎日18.2.18 スポーツコラムニストとして活躍するミッチは、テレビで大学時代の恩師の姿を見かける。モリー先生は、難病ALS(筋萎縮性側索硬化症)に侵されていた。16年ぶりの再会。モリーは動かなくなった体で人とふれあうことを楽しんでいる。「憐れむより、君が抱えている問題を話してくれないか」モリーは、ミッチに毎週火曜日の授業をくれた。人生の意味について。

ドイツ文学	<p>カフカのヴィジュアルな語り：ありのままに見るという読み方 / 吉田暉著 風涛社, 2018.3 940.28-Ka15yd 週刊読書人18.6.8 謎めいたカフカ文学解読の鍵は「見る」がごとく読むこと。カフカの精通する映画、自身の絵画、住居、あるいは語りの仕組み隠喩・換喩の在り方、家族関係、恋人……。テキストに密着し潜む顛れを捉え、未発見の何かに辿り着かんとする意欲的論考の書。</p>
	<p>カフカ = Franz Kafka / [フランツ・カフカ著]; 多和田葉子編 集英社, 2015.10 943-Ka15A7 朝日16.11.27 新訳『変身(かわりみ)』を筆頭に、短編『お父さんは心配なんだよ』長編『訴訟』など、カフカの面白さを1冊に凝縮。</p>
	<p>片手の郵便配達人 / グードルン・パウゼヴァング [著]; 高田ゆみ子訳 みすず書房, 2015.12 943-P28k 日経16.2.28 ナチス・ドイツのポーランド侵攻で始まった第二次大戦。その終盤、間に合わせの訓練を受け、ロシア戦線に送り込まれた17歳のヨハンは、左手を失って故郷の山あいの村へ戻り、郵便配達人として働いている。戦争の本当の姿を描く。</p>
	<p>階段を下りる女 / ベルンハルト・シュリンク著; 松永美穂訳 新潮社, 2017.6 【新潮クレスト・ブックス】 943-Sc4kb 読売17.9.3 旅先の美術館で突然再会した一枚の絵。もしも二人に、別の物語があったなら。一枚の絵をめぐる哀切の恋物語。</p>
	<p>ネオナチの少女 / ハイディ・ベネケンシュタイン著; 平野郷子訳 筑摩書房, 2019.2 946-B35n 週刊読書人19.3.22 18歳まで私はナチだった。ナチスドイツの教えを信奉する家庭に生まれた女性が、その思想と葛藤し、極右の世界と決別するまでを描いた迫真の手記。</p>
	<p>ハリネズミの願い / トーン・テレヘン著; 長山さき訳 新潮社, 2016.6 949.33-Te32h 読売16.8.7朝日17.1.8 自分のハリが大嫌い。動物とうまく付き合えないハリネズミ。みんなを自宅に招待しようと思いつが…。</p>
フランス文学	<p>ゴリオ爺さん / バルザック著; 中村佳子訳 光文社, 2016.9 【光文社古典新訳文庫】 953-B16g.n 朝日17.10.8 パリで法学を学ぶ貧乏貴族の子弟ラスティニャックは、下宿屋に身を寄せ、社交界に潜り込む。そこで目にした令夫人は、実は下宿のみすぼらしいゴリオ爺さんの娘だというのが…。フランス文学の大傑作を読みやすい新訳で。</p>
	<p>HHhH (エイチ・エイチ・エイチ・エイチ) : プラハ、1942年 / ローラン・ビネ著; 高橋啓訳 東京創元社, 2013.6 953-B44h (ゴンクール賞最優秀新人賞) ユダヤ人大量虐殺の首謀者、野獣ハイドリヒ。彼を暗殺すべく、二人の青年はプラハに潜入した。</p>
	<p>ボージャングルを待ちながら / オリヴィエ・ブルドー著; 金子ゆき子訳 集英社, 2017.9 953-B676b 日経17.10.28 現実を笑い飛ばして暮らす、3人家族のおしゃれな日常。その華やかな暮らしの裏側には、軽いだけではない深い理由が…。奔放で魅力的、そしてちょっぴり切ない、フランスで50万部超えの大ベストセラー、待望の邦訳。</p>
	<p>異邦人 / カミュ [著]; 窪田啓作訳 新潮社, 1995.6 【新潮文庫】 953-C141ib 朝日18.3.11 人を殺害し、動機は「太陽のせい」と答える…。論理性が失われている男を主人公に、不条理を追求した代表作。</p>
	<p>恐るべき子供たち / コクトー著; 中条省平, 中条志穂訳 光文社, 2007.2 【光文社古典新訳文庫】 953-C82o.n 朝日18.2.11 幻想的な雰囲気の中に登場する少年少女は、愛し、憎み、夢のように美しく、悲痛な宿命をになって死んでゆく。</p>
	<p>もうひとつの「異邦人」: ムルソー再捜査 / カメル・ダーウド著; 鶴戸聡訳 水声社, 2019.1 953-D39m 日経19.4.13 カミュの『異邦人』を反転させ、ムルソーによって殺害されたアラブ人の弟が紡ぐ“もうひとつの物語”とはなにか!? 世界でもっとも読まれたフランス小説を、アラブ人の視点から創造＝想像的に捉え返す衝撃作。</p>
	<p>ヨーゼフ・メンゲレの逃亡 / オリヴィエ・ゲーズ著; 高橋啓訳 東京創元社, 2018.10 953-G911j 読売18.12.2東京12.16 アウシュビッツ絶滅収容所に着いたユダヤ人を、ガス室行きと生存させる組とに選別した医師メンゲレは、優生学に取り憑かれ、子供、特に双子たちに想像を絶する実験を重ねた。1945年のアウシュビッツ解放後に南米に逃れ、モサドの追跡を逃れて生き延び、79年ブラジルで心臓発作で死亡する。なぜ彼は生き延びることができたのか? どのような逃亡生活を送ったのか? その半生の真実と人間の本質に、淡々としかし鋭い筆致で迫った傑作小説。ルノードー賞受賞。</p>
	<p>服従 / ミシェル・ウエルベック著; 大塚桃訳 河出書房新社, 2017.4 【河出文庫】 953-H96f-K 日経15.10.25 2022年フランス大統領選で同時多発テロ発生。極右・国民戦線マリーヌ・ル・ペンと穏健イスラーム党党首が決戦に挑む。テロと移民にあえぐ国家を舞台に個人と自由の果てを描いた傑作長篇。世界の激動を予言したベストセラー。</p>
	<p>殺されたゴッホ / マリアヌ・ジエグレ著; 橋明美, 白井美子訳 小学館, 2017.10 【小学館文庫】 953-J13k 文藝春秋17.12 なぜ、ゴッホは殺されたのか。誰に殺されなければならなかったのか。最後の2年間と死の真相に迫る小説。</p>
	<p>ミッテランの帽子 / アントワーヌ・ローラン著; 吉田洋之訳 新潮社, 2018.12 953-L371m 【新潮クレスト・ブックス】 東京19.2.24 その帽子を手にした日から、冴えない人生は美しく輝きはじめる。舞台は1980年代。時の大統領ミッテランがブラッサーに置き忘れた帽子は、持ち主が変わるたびに彼らの人生に幸運をもたらしてゆく。</p>
<p>天国でまた会おう / ピエール・ルメートル著; 平岡敦訳 早川書房, 2015.10 953-L541t 朝日15.12.20(ゴンクール賞)膨大な犠牲者を出して大戦は終わった。支え合い生きる青年たちは国家を揺るがす詐欺を企てる。</p>	
<p>脂肪の塊; ロンドリ姉妹: モーパッサン傑作選 / モーパッサン著; 太田浩一訳 光文社, 2016.9 953-Ma95A9 【光文社古典新訳文庫】 毎日16.10.23 プロイセン軍を避けて街を出た馬車で、“脂肪の塊”という愛称の娼婦と乗りあわせたブルジョワ、貴族、修道女たち。人間のもつ醜いエゴイズム、好色さを痛烈に描いた『脂肪の塊』と、イタリア旅行で出会った娘との思い出を綴った『ロンドリ姉妹』など、ヴァラエティに富む中・短篇全10作を収録。</p>	
<p>女の一生 / モーパッサン [著]; 永田千奈訳 光文社, 2011.3 【光文社古典新訳文庫】 953-Ma95o.n 朝日17.12.10 男爵家の一人娘に生まれ何ん自由なく育ったジャンヌ。しかし現実にはジャンヌを翻弄し続ける。乳姉妹だった女中のロザリが妊娠し、その相手が自分の夫であることを知った時、彼女は過酷な現実を生き始めた…。</p>	
<p>肉体の悪魔 / ラディゲ著; 中条省平訳 光文社, 2008.1 【光文社古典新訳文庫】 953-R116n 朝日18.1.4 第一次大戦下のフランス。パリの学校に通う15歳の僕は、19歳の人妻マルトと出会う。二人は年齢の差を超えて…。</p>	

フ ラ ン ス 文 学	戦う操縦士 / サン=テグジュペリ著；鈴木雅生訳 光文社，2018.3 【光文社古典新訳文庫】 953-Sa22t.s 毎日18.6.10 ドイツ軍の電撃的侵攻の前に敗走を重ね、機能不全に陥ったフランス軍。危険だがもはや無益な偵察飛行任務を命じられた「私」は、路上に溢れる避難民を眼下に目撃し、高空での肉体的苦痛や対空砲火に晒されるうち、人間と文明への“信条”を抱くに至る。著者の実体験に基づく小説。
	2084：世界の終わり / ブアレム・サンサル著；中村佳子訳 河出書房新社，2017.8 953-Sa66n 日経17.11.11 2084年、偉大な神への服従を強いられる国で主人公は謎の国境を目指す。アカデミーフランセーズ大賞のディストピア長篇。ジョージ・オーウェル『1984』、ミシェル・ウエルベック『服従』のその先を描いたディストピア小説の新たな傑作。
	赤と黒：十九世紀年代記 / スタンダール著；野崎歓訳 光文社，2007.9-2007.12 953-St4a.n 【光文社古典新訳文庫】 953-St4a.n-2 朝日17.9.10 貧しい家に育った青年ジュリヤンは、立身のため僧職に身を投じる。ジュリヤンは金持ちへの反発と野心から…。
	十五少年漂流記 / ジュール・ヴェルヌ著；椎名誠，渡辺葉訳 新潮社，2015.8 953-V62j.s 産経15.11.1 冒険物語の金字塔。この無類の冒険譚を愛読し、モデルの島まで航海した椎名誠と渡辺葉による父娘共訳。
	美女と野獣：オリジナル版 / ガブリエル=シュザンヌ・ド・ヴィルヌーヴ著；藤原真実訳 白水社， 953-V711b 2016.12 赤旗17.6.30 ヴィルヌーヴ夫人が書いた本邦初訳のオリジナル完全版。あのおとぎ話は、パワハラを原因とする恋愛文学だった。
	彼女のひたむきな12カ月 / アンヌ・ヴィアゼムスキー著；原正人訳 ディスクユニオン，2016.7 953-W71k 毎日16.9.4 ゴダールに恋した青春の日々。19歳のアンヌの葛藤と成長を描く、自伝的小説。受験勉強に励んでいたアンヌは、1966年のある日、新進気鋭の映画監督ゴダールに手紙を送る。彼女の運命を変えてしまうことになるとは、考えもせずに。
	日本人の恋びと / イサベル・アジェンデ著；木村裕美訳 河出書房新社，2018.2 963-A41n 朝日18.4.7日経4.28 毎週届くクチナシの花、黄色い封筒に入った手紙、お忍びの小旅行…。80代を迎えた老人の謎めいた日常の背後に、何があるのか。老人ホームに暮らすアルマ。日系人イチメイとの悲恋を主軸に過去と現代のドラマが展開する。
	アウシュヴィッツの図書係 / アントニオ・G・イトゥルベ著；小原京子訳 集英社，2016.7 963-I91a 朝日16.10.23 アウシュヴィッツ収容所に、囚人によって作られた学校。ここに8冊だけの秘密図書館がある。図書係は14歳の…。
	ヌメロ・ゼロ / ウンベルト・エーコ著；中山エツコ訳 河出書房新社，2016.9 973-E19nb 毎日18.12.2 ある新聞のパイロット版を手がけるという名目のもと、「握りつぶされた真実を告発する新聞の創刊」を目指す編集部。しかしその新聞発行の裏には、出資者の利益を考慮した歪んだジャーナリズムの恐ろしい陰謀が隠されていた…。
	プラハの墓地 / ウンベルト・エーコ著；橋本勝雄訳 東京創元社，2016.2 973-E19p 読売毎日16.3.27朝日4.3東京4.24日経5.15 ナチスのホロコーストを招いたと言われている、現在では偽書とされる『シオン賢者の議定書』。この文書をめぐり、文書偽造家にして稀代の美食家シモーネ・シモニーニの回想録の形をとった本作は、彼以外の登場人物のはほとんどが実在の人物という、19世紀ヨーロッパを舞台に繰り広げられる見事な悪漢小説(ピカレスクロマン)。
二十六人の男と一人の女：ゴリキー傑作選 / ゴリキー著；中村唯史訳 光文社，2019.2 【光 983-G67n 文社古典新訳文庫】 毎日19.3.17 半地下の部屋で一日中パンを作られている俺たちには、毎朝やってくる小間使いターニャの存在だけが希望の光だった。だが、伊達男の登場で…。底辺で生きる男たちの哀歓を歌った表題作、港町のアウトローの郷愁と矜持を生き生きと描いた「チェルカッシン」など、初期・中期の4篇。	
陽気なお葬式 / リュドミラ・ウリツカヤ著；奈倉有里訳 新潮社，2016.2 【新潮クレスト・ブックス】 983-U61y 毎日16.2.28 自分の葬儀が、絶望と悲しみに染まることなく、愛で満たされるように…。祝祭感と幸福感に包まれる中篇小説。	
レーナの日記：レニングラード包囲戦を生き延びた少女 / エレーナ・ムーヒナ [著]；佐々木寛，吉原深 986-Mu25L 和子訳 みすず書房，2017.9 日刊ゲンダイ17.12.9東京18.1.14 1941年9月、ドイツ軍は250万の市民が暮らすレニングラードを包囲した。16歳のレーナは腹いっぱい食べることを夢見ながら、日記を書き続ける。飢餓と爆撃と酷寒の都市で、食べ物と言葉への執着が命をつないだ。	

獨協大学図書館 2019.8.7